

分布調査報告書 (34)

2008

山形県教育委員会

分布調査報告書 (34)

平成 20 年 3 月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成18年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

平成17年度からスタートした第5次山形県教育振興計画では、「いのち」「まなび」「かかわり」をテーマとしています。その中で文化財の保存と活用については、文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知徹底・普及に務めることが大きな柱とされました。調査により得られた情報はデジタル化され『山形県遺跡地図』による周知システムの運用と更なる改訂を進めていくことになります。

遺跡詳細分布調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地や未発見のままとなっている埋蔵文化財包蔵地と、各種の開発計画との調整資料を得るために実施しております。その中で新たな遺跡の発見や範囲の変更・削除など年々新たな情報が追加されていきます。本書はこれらの新しい埋蔵文化財に関する情報を知らせるものであり、開発計画の策定等にあって積極的に活用していただければ幸いです。

平成20年3月

山形県教育委員会

教育長 山口 常夫

例 言

1 本書は平成18年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成19年度以降の農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査（県内遺跡発掘調査）の報告書である。

2 本書の作成は山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室の阿部明彦、石井浩幸、丸吉繁一、高橋 敏（平成18年度担当）の4名が担当した。

3 第1章に平成18年度の調査遺跡一覧を、第2章に個々の調査結果を記した。また、第3章に記録保存調査報告、第4章には調査結果をまとめるとともに平成18年度に国等の機関や市町村教育委員会、地権者から通知または届出のあった新規発見遺跡の一覧を示した。平成18年度までの新規発見遺跡、登録抹消遺跡、範囲・位置の変更については本書の発行をもって周知されたものとする。

4 挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。断面略図は40分の1を基本としたが、1部20分の1も併用した。遺跡地図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。なお、第2章-2及び第3章では、これを縮小して使用した。使用地図の図幅一覧は巻末に掲載した。

5 挿図及び文中の記号は以下のとおりである。

T、TTは試掘溝（トレンチ）、TP、□は試掘坑を表す。図中の赤色部分は遺構・遺物が検出されたことを示し、黒色部分は遺構・遺物が未検出であることを示す。

遺跡位置図の赤色部分は遺跡の範囲を示す。

ST-堅穴住居跡 SB-建物跡 SK-土坑 SD-溝跡 EB-掘り方
EP-柱穴 SX-性格不明落ち込み

6 図版の遺物縮尺は任意縮尺である。

7 調査にあたっては、関係機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げます。

目 次

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1

II 調査の概要

1 遺跡地名表	
(1) 県農林事業関係遺跡	4
(2) 県土木事業関係遺跡	6
(3) 県教育庁関係遺跡	6
(4) 住宅公社関係遺跡	6
(5) 国土交通省関係遺跡	6
2 試掘調査の概要	
(1) 西山遺跡	22
(2) 植ノ山1遺跡	24
(3) 葎田2遺跡	26
(4) 野村清水遺跡	30
(5) 上の寺遺跡	32
(6) 上野遺跡	34
(7) 泉興野1遺跡	36
(8) 泉興野2遺跡	37
(9) 天神堂大坪遺跡	38
(10) 野田蔵手刀出土地1	42
(11) 草伊賀B遺跡	48
(12) 石橋遺跡	50
(13) 天矢場遺跡	54
(14) 山形城三ノ丸	58
(15) 達磨寺遺跡	60
(16) 檜原遺跡	62
(17) 上大作裏遺跡	66
(18) 堤屋敷遺跡	70
(19) 川内袋遺跡	74
(20) 南田遺跡	78
(21) 保呂羽堂遺跡	80
(22) 円能寺村東遺跡	84
(23) 分遺跡	88

III 記録保存 立会調査の概要

1 八幡西遺跡	90
2 空沢遺跡	94
3 石橋遺跡	103

IV まとめ

- 1 調査遺跡について
- 2 新規登録遺跡及び記載事項変更遺跡、登録抹消遺跡
 - (1) 県教育委員会が発見し登録した遺跡117
 - (2) 国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出により登録した遺跡118
 - (3) 範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡118

挿 図 目 次

第1図	西山遺跡調査概要図	22
第2図	西山遺跡調査平面・断面図	23
第3図	植ノ山1遺跡調査概要図	24
第4図	葎田2遺跡調査平面図	26
第5図	葎田2遺跡調査概要図	27
第6図	葎田2遺跡須恵器拓影図	29
第7図	野村清水遺跡調査概要図	30
第8図	野村清水遺跡調査平面・断面図	31
第9図	上の寺遺跡調査概要図	32
第10図	上野遺跡調査概要図	34
第11図	泉興野1遺跡調査概要図	36
第12図	泉興野2遺跡調査概要図	37
第13図	天神堂大坪遺跡調査概要図	38
第14図	泉興野1・2遺跡、天神堂大坪遺跡調査平面図・断面図	41
第15図	野田巖手刀出土地1調査概要図	42
第16図	野田巖手刀出土地1調査平面・断面図	43
第17図	草伊賀B遺跡調査概要図	48
第18図	草伊賀B遺跡出土遺物実測図	49
第19図	石橋遺跡調査概要図	51
第20図	石橋遺跡調査平面・断面図	52
第21図	天矢場遺跡調査概要図	54
第22図	天矢場遺跡調査平面・断面図	55
第23図	天矢場遺跡出土土器拓影図	57
第24図	山形城三ノ丸調査概要図	58
第25図	達磨寺遺跡調査概要図	60
第26図	檜原遺跡調査概要図	62
第27図	檜原遺跡調査平面・断面図	63
第28図	上大作裏遺跡調査概要図	66
第29図	上大作裏遺跡調査断面図	67
第30図	上大作裏遺跡出土土器拓影図	67

第31図	堤屋敷遺跡、下屋敷遺跡調査概要図	71
第32図	堤屋敷遺跡調査平面図・断面図	72
第33図	堤屋敷遺跡出土土器拓影図	72
第34図	川内袋遺跡調査概要図	74
第35図	川内袋遺跡調査平面・断面図	75
第36図	川内袋遺跡出土土器拓影図	75
第37図	南田遺跡調査概要図	78
第38図	南田遺跡調査調査平面・断面図	79
第39図	保呂羽堂遺跡調査概要図	81
第40図	保呂羽堂遺跡調査平面・断面図	82
第41図	保呂羽堂遺跡出土遺物実測図	83
第42図	円能寺村東遺跡調査概要図	84
第43図	円能寺村東遺跡出土土器拓影図	86
第44図	分遺跡調査概要図	88
第45図	八幡西遺跡調査概要図	90
第46図	八幡西遺跡調査平面図	91
第47図	八幡西遺跡出土遺物実測図	93
第48図	空沢遺跡周辺遺跡地図	95
第49図	空沢遺跡調査区位置図	95
第50図	空沢遺跡調査区断面図	96
第51図	空沢遺跡調査平面図(1)	97
第52図	空沢遺跡調査平面図(2)	99
第53図	空沢遺跡出土遺物実測図	100
第54図	石橋遺跡位置図	104
第55図	石橋遺跡調査概要図	102
第56図	石橋遺跡平面・断面図(1)	106
第57図	石橋遺跡平面・断面図(2)	107
第58図	石橋遺跡平面・断面図(3)	108
第59図	石橋遺跡平面・断面図(4)	109
第60図	石橋遺跡平面・断面図(5)	110
第61図	石橋遺跡出土遺物実測図	111

附 表 目 次

表-1	平成18年度埋蔵文化財遺跡詳細分布調査一覧	2・3
表-2	平成18年度県内遺跡分布・試掘調査工程表	3
表-3	石橋遺跡出土遺物観察表	112
表-4	掲載遺跡位置図使用図幅一覧(2万5千分の1)	116

図 版 目 次

図版 1	西山遺跡	23
図版 2	植ノ山 1 遺跡	25
図版 3・4	菰田 2 遺跡	28・29
図版 5	野村清水遺跡	31
図版 6	上の寺遺跡	33
図版 7	上野遺跡	35
図版 8～10	泉興野 1・2 遺跡・天神堂大坪遺跡	39～41
図版 11～14	野田蕨手刀出土地 1	44～47
図版 15	草伊賀 B 遺跡	49
図版 16・17	石橋遺跡	51・53
図版 18・19	天矢場遺跡	56・57
図版 20	山形城三ノ丸	59
図版 21	達磨寺遺跡	61
図版 22・23	檜原遺跡	64・65
図版 24・25	上大作裏遺跡	68・69
図版 26・27	堤屋敷遺跡	70・73
図版 28・29	川内袋遺跡	76・77
図版 30	南田遺跡	79
図版 31～33	保呂羽堂遺跡	80～83
図版 34～36	円能寺村東遺跡	85～87
図版 37	分遺跡	89
図版 38～40	八幡西遺跡	91～93
図版 41～42	空沢遺跡	101・102
図版 43・46	石橋遺跡	112～115

遺跡地名表 挿図・図版目次

遺跡地名表	位置図・図版 1	県農林事業関係遺跡	10
遺跡地名表	位置図・図版 2	県農林事業関係遺跡	11
遺跡地名表	位置図・図版 3	県農林事業関係遺跡	12
遺跡地名表	位置図・図版 4	県土木事業関係遺跡	13
遺跡地名表	位置図・図版 5	県土木事業関係遺跡	14
遺跡地名表	位置図・図版 6	県土木事業関係遺跡・県教育庁関係遺跡	15
遺跡地名表	位置図・図版 7	国土交通省関係遺跡	16
遺跡地名表	位置図・図版 8	国土交通省関係遺跡	17
遺跡地名表	位置図・図版 9	国土交通省関係遺跡	18
遺跡地名表	位置図・図版 10	国土交通省関係遺跡	19
遺跡地名表	位置図・図版 11	国土交通省関係遺跡	20
遺跡地名表	位置図・図版 12	国土交通省関係遺跡	21

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成18年度以降に予定されている開発計画に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお一部今年度までの調査結果に基づき記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会の調査も実施した。調査はその目的によって以下の方法で実施した。

(1) A調査（現地確認調査・表面調査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握して開発計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では毎年5～6月に開発関係機関に今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて7月上旬に聴き取りを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そしてこの結果に基づいて必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか開発関係機関から提出された埋蔵文化財分布調査に基づく調査も随時行っている。

平成18年度の調査は表-1に示した各遺跡の調査を平成19年4月から平成20年3月まで表-2の工程で行うとともに、事業予定区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。

なお、平成18年度に県教育委員会が新たに発見した遺跡（平成18年度登録遺跡）、範囲等を訂正した遺跡、登録を抹消した遺跡はIV章のまとめに示した。

表-1 平成18年度埋蔵文化財遺跡詳細分布調査一覧

No.	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分				備考
				A	B	C	立会	
1	一般農道整備事業 天童市成生地区2期	天童市成生	熊野堂前					
2	一般農道整備事業 中山町向日葵地区	中山町土橋	松岡山	○	○			
3	墳地総合整備事業 鹿島・石持原地区	寒河江市石持	石持原				○	
4	農地環境機能整備事業	鶴岡市横代	たらのき代D				○	
5	農地環境機能整備事業	南陽市上野	上野			○		
6	ふるさと農道緊急整備事業 新庄市野中地区	新庄市野中	中川原C	○				
7	農免農道整備事業 寒河江中央地区	慈恩寺上	の寺			○		
8	経営体育成基盤整備事業 鳴谷地区	上山市小倉	植ノ山1	○				範囲訂正
9	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸地区	鮭川村石名坂	笹田	○				
10	経営体育成基盤整備事業 鮭川左岸地区	鮭川村石名坂	笹田2	○				新規発見
11	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	谷地寺遺跡	○				
12	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	谷地中遺跡	○				
13	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	道徳稲敷遺跡	○				
14	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	大屋敷遺跡	○				
15	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	南台遺跡	○				
16	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	新町遺跡	○				新規発見
17	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	可能性地2	○				
18	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	可能性地3	○				
19	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	可能性地4	○				
20	経営体育成基盤整備事業 下久野本地区	長井市九野本	可能性地5	○				
21	経営体育成基盤整備事業 鷺瀬地区	鶴岡市添川	西山墳墓	○				
22	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市添川	西山				○	
23	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市川代	海谷山	○				
24	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市添川	野村清水	○	○			
25	中山間総合整備事業 ふじの里東部地区	鶴岡市添川	郷の浜E	○	○			
26	畜産担い手育成総合整備事業	新庄市昭和	未確認	○				
27	畜産担い手育成総合整備事業	真室川町新町	未確認	○				
28	主要地方道天童大線 蔵増バイパス	天童市蔵増	未確認	○				
29	一般県道冠岩原線	天童市山元	山元	○	○			範囲修正
30	地方道路整備交付金長野野田線	東根市野田	野田藤手刀出土地	○				
31	臨時道路整備事業(一) 東根長島線	村山市名取	草伊賀B	○				範囲訂正
32	県道真室川鮭川線歩道新設工事	鮭川村石名坂	小反				○	
33	一般国道287号長井南バイパス	川西町西大塚	八幡西				○	
34	(主) 高島川川線道路改築事業	川西町中小松	未確認	○				
35	(主) 酒田松山線道路改築事業	酒田市飛鳥	泉興野1	○	○			新規発見
36	(主) 酒田松山線道路改築事業	酒田市飛鳥	泉興野2	○	○			新規発見
37	(主) 酒田松山線道路改築事業	酒田市飛鳥	天神堂大坪	○	○			新規発見
38	灯台下急傾斜地崩壊対策事業	鶴岡市由良	由良館				○	
39	大波渡川通常砂防事業	鶴岡市堅吾沢	堅吾沢館				○	
40	瀬の上急傾斜地崩壊対策事業	鶴岡市堅吾沢	十二館	○				
41	家の前自然災害防止事業	八幡町北青沢	青沢館				○	
42	内田元急傾斜地崩壊対策事業	鶴岡市中清水	栗館				○	
43	山寺急傾斜地崩壊対策事業	山形市山寺	山寺				○	
44	急傾斜地崩壊対策事業	山形市山寺	山寺				○	
45	大地蔵沢川通常砂防事業	米沢市赤崩	寺				○	
46	七郎ヶ沢通常砂防事業	米沢市関根	七郎ヶ沢				○	
47	県立米沢商業高等学校校舎改築	米沢市米沢	未確認	○				
48	県立酒田東高等学校校舎改築	酒田市酒田	亀ヶ崎城跡				○	
49	住宅団地造成事業	天童市貫津	石橋	○	○			新規発見
50	住宅団地造成事業	山形市岩波	未確認	○				
51	最上川下流沿岸農業水利事業前川第2幹線用水路	酒田市境奥野	内能寺村東	○	○			新規発見
52	最上川下流沿岸農業水利事業前川第3幹線用水路	酒田市境奥野	分	○				新規発見
53	最上川下流沿岸農業水利事業前川第4幹線用水路	酒田市境奥野	北田2	○				
54	山形地方裁判所増築事業	山形市山形	未確認	○				
55	国道13号 新庄北道路	新庄市松本	可能性地1					
56	新庄古口道路	新庄市福	宮	○				新規発見
57	新庄古口道路	新庄市清水	端	○				

No.	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分				備考
				A	B	C	立会	
58	新庄古口道路	新庄市	八幡原1	○				新規発見
59	新庄古口道路	新庄市	八幡原2	○				新規発見
60	新庄古口道路	新庄市	高田	○				新規発見
61	新庄古口道路	戸沢村古口	タテ	○				新規発見
62	新庄古口道路	戸沢村古口	岩鼻橋	○				
63	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地1	○				
64	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地2	○				
65	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地3	○				
66	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地4	○				
67	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地5	○				
68	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地6	○				
69	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地7	○				
70	新庄古口道路	戸沢村古口	可能性地8	○				
71	新庄古口道路	戸沢村古口	出舟	○				
72	新庄古口道路	戸沢村古口	黒島	○				新規発見
73	国道13号 上山バイパス	山市中山	中山城	○				
74	国道13号 上山バイパス中川工区	南陽市中川	可能性地1		○			
75	国道14号 上山バイパス中川工区	南陽市川橋	天矢場		○			新規発見
76	国道15号 上山バイパス中川工区	南陽市川橋	可能性地5		○			
77	国道112号環城改良	山形市山形	山形三の丸	○	○			
78	国道112号間沢歩道拡幅	西川町間沢	間沢館	○				
79	国道112号海味歩道拡幅	西川町海味	海味館	○				
80	国道113号赤湯バイパス	南陽市高梨	楡原		○			
81	国道113号赤湯バイパス	南陽市梨郷	上大作裏		○			
82	東北中央自動車道福島米沢間 梓山地区	米沢市桑山	可能性地3		○			
83	東北中央自動車道福島米沢間 梓山地区	米沢市桑山	堤屋敷		○			範囲訂正
84	東北中央自動車道福島米沢間 梓山地区	米沢市桑山	山ノ下		○			
85	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡市五十川	川内袋		○			
86	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡市白山林	南田		○			範囲訂正
87	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡市白山林	玉作3		○			
88	日本海沿岸自動車道 鶴岡温海間	鶴岡市白山林	出張坂城		○			
89	須川河川改修	山形市灰塚	可能性地3				○	
90	須川河川改修	山形市灰塚	可能性地7			○		
91	須川河川改修	山形市灰塚	可能性地8			○		
92	須川河川改修	中山町達磨寺	達磨寺			○		
93	窪田地区水防倉庫新築事業	米沢市窪田	保呂羽堂			○	○	
94	長井ダム建設工事利水補償施設建設工事	長井市寺泉	可能性地			○		
95	長井ダム建設工事利水補償施設建設工事	長井市寺泉	空沢			○	○	

表-2 平成18年度県内遺跡分布・試掘調査工表情

事業名	平成18年度												平成19年			平成20年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月	2月	3月			
景農林・土木事業関係	—																	
国土交通省・農林水産省 熟住宅供給公社他関係	—																	
平成18年度以降の埋蔵文化財出露 地に懸ける開発事業計画の健全取り				—														
遺物資料整理										—								
報告書原稿作成										—			—					

II 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	熊野堂前遺跡 隣接地	天童市成生字源蔵且浦	不明	自然堤防 (97m)	樹園地
2	包蔵地	松岡山	中山町大字小塩字塩の原	縄文時代	丘陵 (106m)	雑種地 樹園地
3	包蔵地	石持原・可能性地	寒河江市石持	縄文時代	段丘 (115m)	樹園地 畑地
4	包蔵地	たらのき代D	鶴岡市樞代字小文地掘	縄文時代	台地 (245m)	水田
5	集落跡	藤田	鮎川村石名坂字藤田	平安時代	自然堤防 (60m)	水田 荒蕪地
6	集落跡	谷地寺	長井市大字九野本字長野	縄文時代	平地 (205m)	水田
7	包蔵地	谷地中	長井市大字九野本字谷地中	縄文時代	沖積地 (205m)	宅地 水田
8	館跡 城跡	遠藤屋敷	長井市大字九野本	中世～	平地 (204m)	水田 畑地
9	城館跡	大屋敷	長井市大字九野本	中世～	平地 (204m)	畑地
10	集落跡	南台	長井市大字台町	縄文時代 古墳時代 平安時代	平地 (204m)	水田 荒蕪地
11	集落跡	新町	長井市大字九野本字新町	縄文時代	平地 (206m)	水田 荒蕪地
12	不明	可能性地2	長井市大字九野本	不明	平地 (204m)	水田
13	不明	可能性地3	長井市大字九野本	不明	平地 (204m)	水田 水宅
14	不明	可能性地4	長井市大字九野本	不明	平地 (205m)	水田
15	不明	可能性地5	長井市大字九野本	不明	平地 (205m)	水田
16	集落跡	上野	南陽市大字上野字上野	平安時代 中世	台地 (240m)	畑地 樹園地 荒蕪地
17	墳墓	西山墳墓	鶴岡市大字添川字西山	平安時代	山上 (41m)	山林
18	包蔵地	西山	鶴岡市大字添川字西山	平安時代	丘陵 (53m)	畑地
19	包蔵地	海谷森	鶴岡市川代字西増川山	縄文時代	山腹 (250m)	荒蕪地
20	包蔵地	野村清水	鶴岡市大字東堀越字郭の浜	縄文時代	台地 (55m)	樹園地 水田
21	包蔵地	郷の浜E	鶴岡市大字東堀越字郭の浜	縄文時代	台地 (60m)	樹園地

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
天童市街地の北方、乱川扇状地の端部に位置する。農道整備工事に伴い、試掘調査を実施した。25ヶ所の試掘坑から遺構遺物は確認されず、範囲外と判断される。	なし	熊野堂遺跡210-67の隣接地
農道改良工事に係る試掘調査を実施した。トレンチ1ヶ所・試掘坑4ヶ所の調査地点からは遺構遺物は検出されなかった。表面踏査では石器類を採集。	なし	302-419
長岡山の北側に位置する。農道整備に伴い、5ヶ所のトレンチを設定、試掘調査を実施した。遺構遺物は認められなかった。事業区域に遺跡はないと判断された。	なし	No.425
暗渠管埋設に係る立会調査を実施した。掘削溝の幅は15cmであり、遺構は確認されなかった。また掘り上げられた土砂にも遺物の混入は認められなかった。	なし	No.1938
圃場整備及びポンプ場設置工事に伴い、遺跡一帯を踏査した。自然堤防状の高まり部分となっており、廃棄物置き場となっていた。試掘調査が必要である。	なし	No.1046
遺跡範囲内より多数の縄文土器と石器剥片が採集される。長井市教育委員会の試掘では縄文時代中期の遺構遺物が確認された。	縄文土器片・石器剥片	平成18年度長井市教育委員会調査
縄文時代晩期の遺跡として、昭和61年に登録されている。現在は宅地・水田となっており遺物の散布は確認していない。	なし	分布調査14にて登録104
水路や建物配置から城館跡の可能性ある。方形に堀が巡ると想定される。試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	d-211
遠藤屋敷の南側に位置する。一辺200mの大きな屋敷跡で、礎や土塁を残している。地籍図でも方形館の状況が伺える。	陶磁器片	d-212
古墳時代～平安時代の遺跡として登録され、長井市教育委員会の発掘調査では古墳時代の住居跡が検出された。圃場整備予定地域にまで広がる可能性がある。	なし	長井市遺跡地名表 11
遺跡の南西50mには縄文時代後期の登ノ巻遺跡があり、大きく遺跡範囲の中に含まれる可能性がある。試掘調査が必要である。	縄文土器片・石器剥片	平成18年度新規登録
長井市生涯学習プラザの東側に位置する。若干の陶磁器片を採集した。中世以降の屋敷等が存在する可能性がある。試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	
近接する宅地の区割り及び用水路の形状が館土塁・堀跡とも考えられるため、試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	
少量の遺物の散布を確認しているが水田内での遺物を発見しにくい状況であるため、試掘調査による確認が必要である。	土器片 陶磁器片	
数点の陶磁器片の散布を確認しているが水田内での遺物を発見しにくい状況であるため、試掘調査による確認が必要である。	陶磁器片	
南陽市街地から北西約1.5kmの台地上に立地する。事業予定地に5本のトレンチを設定し調査を行ったが、どのトレンチからも遺構遺物は確認されなかった。	なし	平成16年度・18年度(財)山形県埋文センター発掘調査実施 平成16年度登録
小丘腹上に高さ1.5m、径5mの円墳状のマウンドが認められる。付近からは土師器片が採集されているが正確な規模や時期は不明である。	なし	423-1737
平成15年に農道拡幅工事に伴い、発掘調査を実施している。今回平成18年末買収部分の立会調査を実施。柱穴4基を確認し、内3基を精査した。遺物の出土はない。縄文時代の遺跡として登録され、以前に石鏝・石匙等が採集されている。農道整備事業に伴い、計画区域を踏査した。急斜面地にあたり遺跡はないと判断された。	なし	平成15年(財)山形県埋文センター発掘調査実施
羽黒高校北側に位置する。踏査により土器小片を採集したが、トレンチと試掘坑による試掘調査では時期不明のピットその他、遺構遺物は確認されなかった。	なし	424-1825
ため池建設に伴い、踏査を行った。野村清水遺跡に隣接する。果樹の栽培のため遺物等の確認はできなかった。	なし	423-1746
	なし	423-1745

(2) 県土木事業関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
22	集落跡	山元	天童市大字山元字寄際	平安時代	台地 (115m)	宅地 樹園地 畑地
23	包蔵地	野田巖手刀出土地1	東根市大字野田	平安時代	平地 (97m)	宅地 樹園地 畑地
24	集落跡	草伊賀B	村山市大字名取字草伊賀	平安時代	丘陵 (97m)	畑地 水田
25	集落跡	小反	鮭川村大字京塚字小反	縄文時代	段丘 (69m)	水田
27	橋城館跡	由良館	鶴岡市大字由良	中世	山腹 (50m)	山林 荒蕪地
28	橋城館跡	堅苔沢館	鶴岡市大字堅苔沢	中世	山頂 山腹 (80m)	山林 荒蕪地
29	城館跡	青沢館	酒田市大字北青沢	中世	山腹 (235m)	山林 宅地
30	城館跡	栗館	鶴岡市中清水字桃木沢	不明	山頂 (58m)	山林
31	寺院	山寺	山形市山寺	中世 近世	山腹 (250~ 300m)	山林
32	集落跡	市布d	米沢市山字市布	縄文時代	谷底沖積 (370m)	山林 畑地
33	散布地	七郎ヶ沢	米沢市大字関根字七郎ヶ沢	縄文時代	平地 (324m)	畑地 山林

(3) 県教育庁関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
34	城館跡	亀ヶ崎城跡	酒田市亀ヶ崎	中世 近世	平地 (3m)	校舎敷地

(4) 住宅公社関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
35	集落跡	石橋	天童市大字貫津字石橋	平安時代	平地 (115m)	畑地 水田

(5) 国土交通省関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
36	散布地	福宮	新庄市大字本合海字福宮	縄文時代	段丘 (81m)	水田
37	散布地	清水端	新庄市大字福田字八幡原	縄文時代 中世	段丘 (82m)	畑地 水田
38	散布地	八幡原1	新庄市大字福田字八幡原	縄文時代 平安時代	段丘 (82m)	畑地 水田
39	散布地	八幡原2	新庄市大字福田字八幡原	縄文時代	段丘 (83m)	畑地 水田
40	散布地	高田	新庄市大字福田字高田	縄文時代 平安時代	段丘 (85m)	畑地
41	散布地	夕テ	戸沢村大字蔵岡	縄文時代 平安時代	段丘 (56m)	水田 畑地 荒蕪地

遺跡概要	出土遺物	備考
県道新築工事に伴い山元遺跡近接地の試掘調査を実施した。遺構物は確認できなかった。付近の表層踏査から山元遺跡の範囲が広がることが捉えられた。	土師器片・須恵器片	範囲修正
県道新築工事に伴い蔵手刀が出土した地点に隣接する部分の試掘調査を実施した。少量の遺物が出土し、遺跡範囲内であることが判明した。	須恵器片・土師器片	No.710
県道改良工事に伴い試掘調査を実施した。以前の耕地整理により大幅に削平されていることが認められた。出土土器片は東側丘陵からの流れ込みと思われる。	土師器片・須恵器片	分布調査7 24-22
歩道設置工事に伴う現道拡幅工事の立会調査を実施した。柱穴と縄文土器や石器が散見されたが、工事による影響は軽微であると判断された。	縄文土器片・石器剥片	平成16年度(財)山形県埋文センター発掘調査実施
急傾斜地崩壊対策工事に伴い、計画区域の工事の立会調査を実施した。新たに帯曲輪が2箇所あるのを確認した。工事進捗に合わせて随時立会調査することとした。	なし	203-040
大波渡川通常砂防事業に係る堰堤工事の状況を確認した。堰堤の主体が曲輪に掛かる部分については工事前の試掘調査が必要である。	なし	203-064
館東側急傾斜地の法面工事の立会調査を実施する。法枠最上部は館の曲輪に及ばない。遺跡への影響はきわめて少ないと判断される。	なし	462-007
下清水と中清水の間に位置する小丘陵の山頂に立地する。砂防事業による擁壁工事に伴い踏査を実施した。工事による影響は少ないと判断された。	なし	203-019
三輪稲荷神社に隣接する地点について落石防護擁壁工事の立会調査を行った。トレンチと試掘坑を設定し調査した。T1より風1点出土した。	皿	史跡名勝
砂防事業の堤体工事に伴い、立会調査を実施した。堤体設置箇所からは遺構遺物は確認されなかった。	なし	米沢市文化財地図 E-104
砂防堰堤工事に伴う立会調査を実施した。現林道の拡幅工事にあたり重機による掘削を行ったが遺構遺物は確認できなかった。遺跡範囲外と判断された。	なし	平成16年度登録

遺跡概要	出土遺物	備考
校舎改築事業に伴い、電柱設置工事の立会調査を実施した。電柱設置箇所の掘削では遺構は確認されなかった。遺物は上層から近代以降の陶磁器片が出土した。	陶磁器片	204-008 数度にわたる立会調査と発掘調査を実施している

遺跡概要	出土遺物	備考
事業区域内に9本のトレンチを設定した。どの調査区からもピットとともに須恵器片・土師器片が出土した。事業範囲内の発掘調査が必要である。	土師器片・須恵器片	平成18年度新規登録 9月県教委発掘調査実施

遺跡概要	出土遺物	備考
福宮地区の北側、升形川左岸の低位段丘面の北側縁で石器剥片を採集した。まとまった散布が認められた。	石器剥片	平成18年度新規登録
升形川左岸の段丘上に位置する。以前に圃場整備を受けており、遺構が削平されていることも考えられる。	なし	分布調査16 16-5
八幡原古窯推定地とされる段丘崖上の平坦地に位置する。縄文時代後期の土器・石器、須恵器片・土師器片を採集した。	須恵器片・土師器片・縄文土器片・石器剥片	平成18年度新規登録
八幡原1遺跡と谷を挟んで西側に位置する。縄文土器や石器剥片を採集した。八幡原1遺跡と同じ遺跡となる可能性がある。	縄文土器片	平成18年度新規登録
福田地区の北側升形川左岸の低位段丘面の北側縁に位置する。まとまって遺物の散布が認められた。	須恵器片・土師器片・縄文土器片・石器剥片・両面加工石器	平成18年度新規登録
蛙川の形成した低位段丘面に位置し、岩鼻橋に近接する。水田面より須恵器片や石器剥片を採集した。	須恵器片・石器剥片	平成18年度新規登録

42	城館跡	岩 鼻 橋	戸沢村大字蔵岡	中 世	段 丘 (56m)	宅 地 畑 地
43	集落跡	出 舟	戸沢村大字津谷	縄文時代 平安時代	段 丘 (43m)	水 田 山 林
44	散布地	皿 嶋	戸沢村大字古口	平安時代	段 丘 (35m)	水 田
45	不明	可 能 性 地 1	新庄市大字福田字八幡原	不 明	段 丘 (82m)	水 田 宅 地
46	不明	可 能 性 地 2	新庄市大字福田字八幡原	不 明	段 丘 (82m)	水 田 畑 地
47	不明	可 能 性 地 3	新庄市大字本合海字福宮	不 明	段 丘 (80m)	水 田 畑 地
48	不明	可 能 性 地 4	新庄市大字本合海字福宮	不 明	段 丘 (79m)	水 田 畑 地 荒蕪地
49	不明	可 能 性 地 5	新庄市大字升形	不 明	段 丘 (90m)	山 林 荒蕪地
50	不明	可 能 性 地 6	新庄市大字升形	不 明	段 丘 (65m)	水 田 山 林 荒蕪地
51	不明	可 能 性 地 7	新庄市大字升形	不 明	段 丘 (105m)	水 田
52	不明	可 能 性 地 8	戸沢村大字津谷	不 明	段 丘 (92m)	山 林
53	不明	可 能 性 地 1	南陽市大字元中山	不 明	丘 段 (270m)	樹園地 畑 地 宅 地
54	城館跡	間 沢 館	西川町大字間沢字東	中 世	段 丘 (214m)	宅 地
55	城館跡	海 味 館	西川町大字海味字海の宿	中 世	段 丘 (205m)	宅 地 畑 地
56	散布地	山 ノ 下	米沢市大字万世町字桑山	縄文時代 中世 近世	段 丘 (287m)	畑 地 水 田
57	集落跡	玉 作 3	鶴岡市大字下清水	平安時代	平 地 (18m)	水 田
58	城館跡	出 張 坂 城	鶴岡市大字下清水	不 明	台 地 (22m)	工 場
59	集落跡	遠 磨 寺	中山町大字遠磨寺字遠磨	奈良・平安	自然堤防 (94m)	河川敷 堤 防

最上川と鮭川の合流点近くの低位段丘面に位置し、段丘縁辺に沿って層が露かれている。畑地より須恵器片や石器剥片を採集した。	須恵器 石器剥片	367-008
最上川と鮭川の合流地点から400m下流に位置する。遺跡は出船集落に近接する範囲であったが、段丘面に大きくひろがることわかった。	須恵器片・土師器片・縄文土器片・石器剥片	No.1104 範囲修正
最上川右岸の低位段丘に位置する。高位段丘下の水田から須恵器片・土師器片を採集した。	須恵器片・土師器片	平成18年度新規登録
清水隘遺跡の南側に位置し、石器剥片を採集した。清水隘遺跡の外縁部にあたる可能性がある。	石器剥片	
福宮遺跡の南側に隣接し、道路予定地より土器片や石器剥片を採集した。福宮遺跡が大きく広がる可能性がある。	土器片 石器剥片	
升形川の左岸段丘上に位置し、大きく沢が入り込む先端部に位置する。畑地から石器剥片を採集した。	石器剥片	
升形川左岸に突出した八向山丘陵の突端に位置する。山頂部が平坦になっており、遺跡が存在する可能性がある。	なし	地形による
升形川右岸に突出した丘陵の段丘先端部に位置する。付近は平坦部になっており、遺跡が存在する可能性がある。	なし	地形による
升形川左岸に突出した丘陵の麓部に位置する。可能性地はテラス状の平坦部になっており、遺跡が存在する可能性がある。	なし	地形による
タテ遺跡の西側に位置し、水田が広がっている。土器の小片を採集している。以前に圃場整備された区域であり、試掘調査が必要である。	土器片	
最上川右岸の中段段丘に位置する。皿嶋遺跡の北側に位置し、狭い平坦部となっている。遺跡が存在する可能性がある。	なし	地形による
国道13号上山バイパス工事に伴い試掘調査を実施した。6ヶ所のトレンチの内、北東のトレンチから剥片1点が出土した。	石器剥片	
歩道拡幅工事に伴い工事予定地の現状確認を行った。大半が宅地となっており、地表面下の状況は不明である。	なし	322-010
歩道拡幅工事に伴い工事予定地の現状確認を行った。宅地・水田・畑地となっており、立会調査による状況確認が必要である。	なし	322-006
東北中央自動車道米沢インターチェンジ予定地の可能性地3とした範囲で試掘を実施していなかった部分を調査した。	縄文土器	平成17年度登録
日本海沿岸東北自動車道建設に伴い国道7号線との合流地点の現状確認を行った。遺跡範囲内に入るため試掘調査が必要である。	なし	平成16年度登録
国道7号線道路拡幅工事に伴い、事業予定地の現状確認を行った。低い台地状の丘陵の先端部分にあたり、現在は狭い圃地となっている。	なし	203-020
堤防拡張工事に伴い予定地内の試掘調査を実施した。現地表面下70cmまで盛土がみられ、その下も一部過去の工事に伴って削平された様子が見られた。	須恵器片	302-400



熊野堂前遺跡隣接地



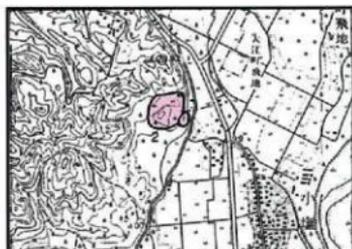
熊野堂前遺跡隣接地調査区近景(東へ)



熊野堂前遺跡隣接地試掘坑



熊野堂前遺跡隣接地試掘坑



松岡山遺跡



松岡山遺跡近景



松岡山遺跡調査対象地近景



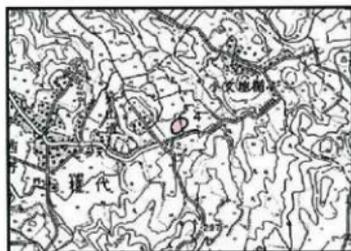
松岡山遺跡採集遺物(石器等)



石持原遺跡



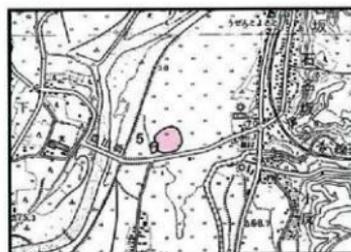
石持原遺跡近景 (南東へ)



たらのき代D遺跡



たらのき代D遺跡近景 (西へ)



葎田2遺跡



葎田2遺跡近景 (東へ)



西山墳墓



鷺畑地区近景 (南西へ)



経営体育成基盤整備事業下九野本地区関係遺跡



大屋敷遺跡近景



新町遺跡近景



谷地寺遺跡近景



谷地寺遺跡採集遺物



海谷森遺跡



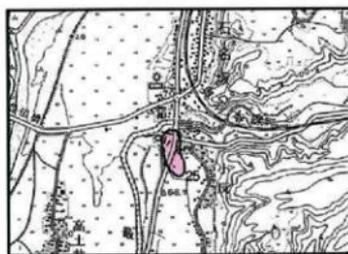
海谷森遺跡近景



山元遺跡



山元遺跡近景(西へ)



小反遺跡



小反遺跡調査区近景(南へ)



小反遺跡出土縄文土器



小反遺跡出土石器



由良館



由良館近景 (北西)



堅吾沢館



堅吾沢館近景 (北西)



青沢館



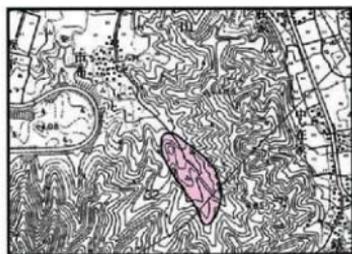
青沢館近景 (東)



山寺



山寺調査区近景



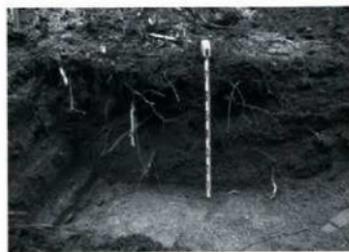
市布d遺跡



市布d遺跡調査区近景



七部ヶ沢遺跡



七部ヶ沢遺跡調査トレンチ



亀ヶ崎城跡



亀ヶ崎城跡調査対象区



関沢館



関沢館近景(西へ)



海味館



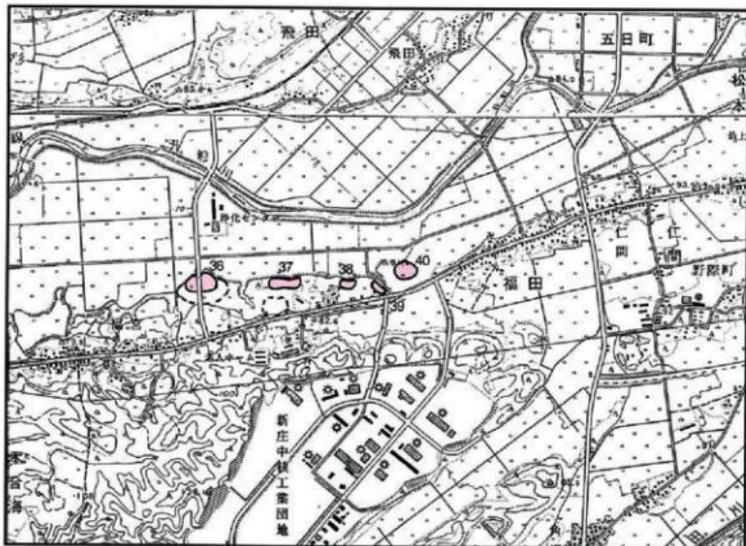
海味館近景 (東一)



玉作3・出張坂城



玉作3・出張坂城近景 (北一)



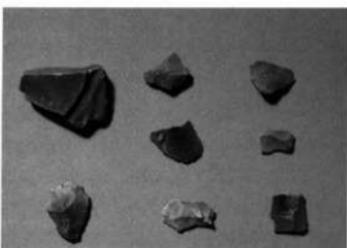
新庄古口道路関係遺跡分布図1



新庄古口道路可能性地 1 (南東→)



新庄古口道路可能性地 2 (西→)



新庄古口道路可能性地 1 出土石器



新庄古口道路可能性地 2 出土石器



新庄古口道路可能性地 3 (福宮公民館付近南→)



新庄古口道路可能性地 4 (西→)



新庄古口道路可能性地 5 (東→)



新庄古口道路可能性地 6 (西→)



タテ遺跡遺景 (北東へ)



新庄古口道路可能性地7 (南西へ)



新庄古口道路可能性地8 遠景 (西へ)



皿嶋遺跡近景 (西北へ)



出舟遺跡遺景 (西へ)



皿嶋遺跡採集遺物



出舟遺跡採集縄文土器



出舟遺跡採集石器



出舟遺跡採集石器(石鏃)



出舟遺跡採集石器(石鏃)



出舟遺跡採集須惠器



出舟遺跡採集土師器・須惠器



出舟遺跡採集須惠器



出舟遺跡採集須惠器



出舟遺跡採集須惠器



出舟遺跡採集須惠器



八幡原家跡推定地遠景（北西→）



八幡原1遺跡近景（東南→）



八幡原2遺跡近景（東→）



高田遺跡近景（北東→）



八幡原1遺跡採集須恵器



八幡原1遺跡採集須恵器



八幡原1遺跡採集須恵器



高田遺跡採集遺物

2 試掘調査の概要

(1) 西山遺跡 (遺跡番号1652)

所在地 鶴岡市大字添川字西山

調査員 高橋 敏

調査期日 平成18年11月14日

起因事業 中山間地総合整備事業 (ぶじの里東部地区)

遺跡環境 出羽丘陵地の西麓に位置する。標高は53mを測り、地目は樹園地・畑地である。

試掘区 遺跡範囲内の農道拡張部分を調査した。

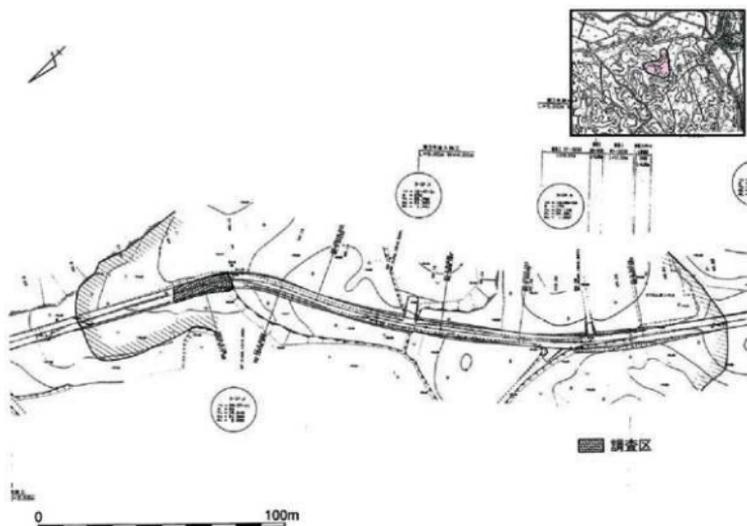
試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出出来ない遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りにより遺構遺物の検出及び精査を行い、検出した遺構遺物の記録保存を行った。

試掘面積 80㎡

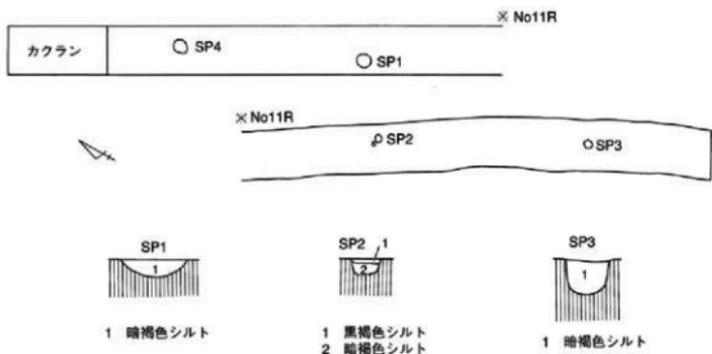
検出遺構 ビット4基

出土遺物 なし

所見 (財)山形県埋蔵文化財センターによる発掘調査時に未買収地だった部分について立会調査を実施した。表土から30cmほどで黄褐色粘土の地山になり、柱穴と思われるビット4基を確認し、精査した。表土除去中、遺構精査中の遺物の出土はない。



第1図 西山遺跡調査概要図



第2図 西山遺跡調査平面・断面図



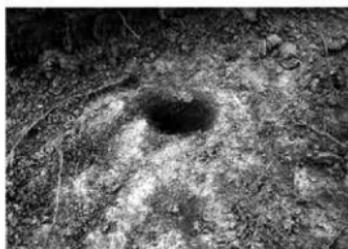
調査風景 (北へ)



調査トレンチ状況 (南へ)



遺構 (柱穴) 検出状況



柱穴半截状況

(2) 榑ノ山1遺跡 (平成15年度新規登録)

所在地 上山市大字小倉字榑ノ山

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年10月10日

起因事業 経営体育成基盤整備事業 (鴨谷地区)

遺跡環境 蔵王山西側山腹の緩やかな平坦地に位置する。標高は415mを測り、地目は水田・畑地である。事業区域は平坦地を削平して造成した水田である。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ2ヶ所を設定した。

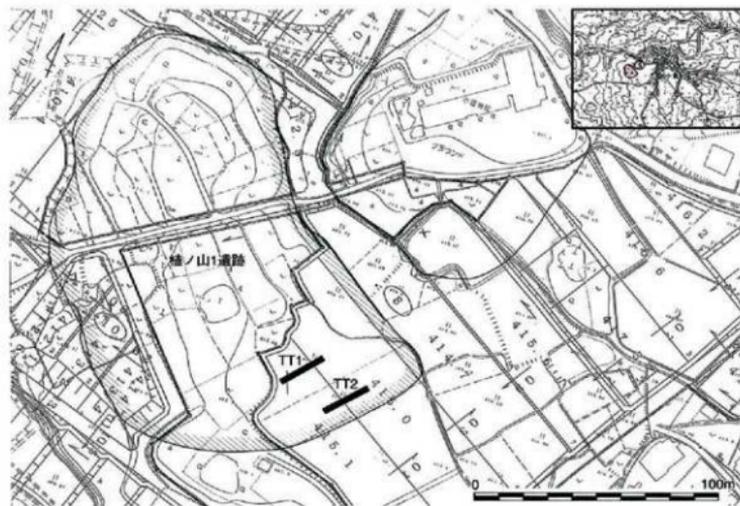
試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 80㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

所見 TT1では現耕作土、床土の下に黒色土が厚く堆積しており、その下に淡黄褐色粘土層が見られた。TT2では現耕作土、床土の下で地山とみられる橙褐色土層を検出した。地山面は西側に向かって傾斜しており、TT1とTT2の西側はかつての沢筋にあたりと考えられる。両トレンチともに遺構遺物は確認できなかった。以前の水田造成において遺構面は削平し、消失しまったとみられる。ただ丘陵上の畑地付近は縄文時代の遺物が採集できることから遺構が残されている可能性がある。



第3図 榑ノ山1遺跡調査概要図



遺跡全景 (南東へ)



調査風景 (北へ)



調査トレンチ (TT1) 土層断面



トレンチ調査状況 (南へ)



調査トレンチ (TT2) 土層断面

(3) 藤田 2 遺跡

所在地 最上郡鮭川村石名坂字藤田

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年5月9日 平成18年10月23日・24日

起回事業 経営体育成基盤整備事業（鮭川左岸地区）

遺跡環境 鮭川左岸直近の自然堤防上に立地し、その主要部には台地縁辺を利用して構築された中世前期の周濠を伴う一辺80m～100m規模の方形館が占地している。濠跡は伝世したと考えられる畦畔等区画から、上幅で5～10m内外と推定される。

調査区 5月の調査では事業区内に当初計画されたポンプ場予定地が中心、後の10月の調査では、主として館跡周辺の東側を対象とした。

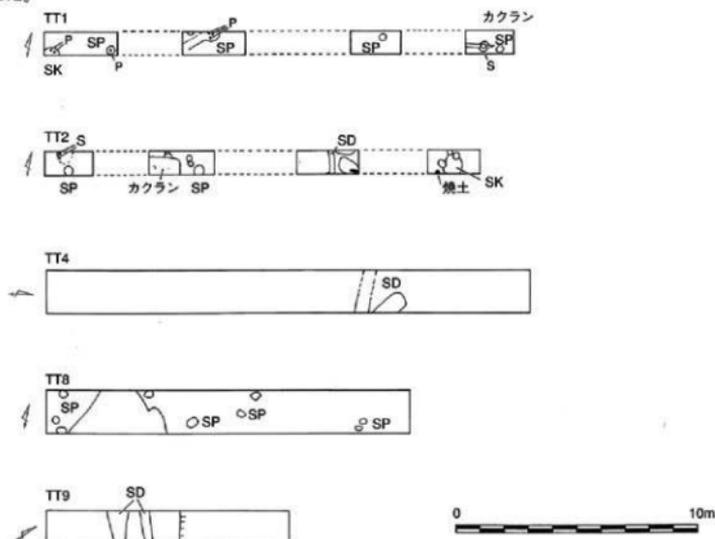
調査方法 1.5×10mないし1.5×5mの試掘坑を10箇所にて、重機で表土を剥いだ後、人力で掘下げと面整理・面精査を実施している。

調査面積 30㎡（5月） 108㎡（10月） 計138㎡

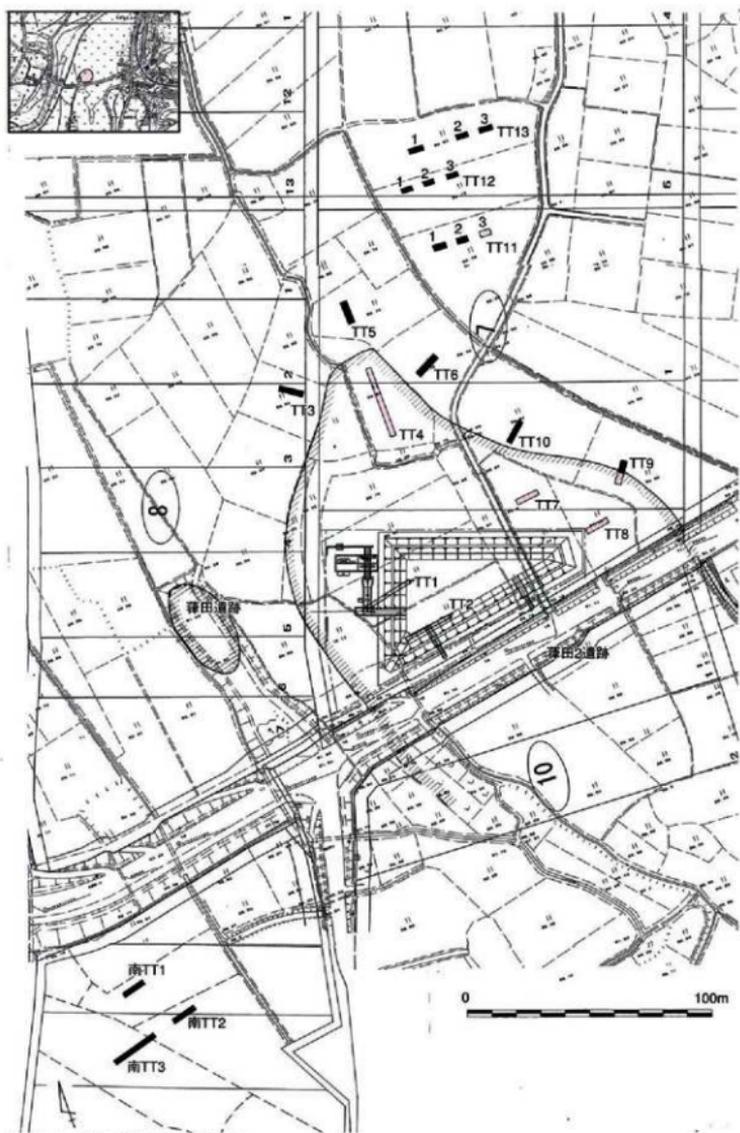
検出遺構 柱穴・溝跡・土坑等

出土遺物 土師器、須恵器、青磁、主体は土師器類で、須恵器や青磁は少量である。

所見 遺跡は低位の段丘面に位置し洪水等の災禍からは逃れ難い立地環境にあるが、10世紀代の古代集落や中世前期の方形館などの在り方は当地の歴史を考える上で重要な資料と言える。なお、遺構覆土中には十和田 a と思われる火山灰を含むものが認められた。



第4図 藤田2遺跡調査平面図



第5図 葦田2遺跡調査概要図



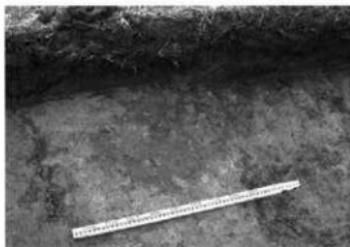
遺跡遠景（南東→）



調査風景（T T 7）



T T 8 調査状況



遺構（柱穴）検出状況

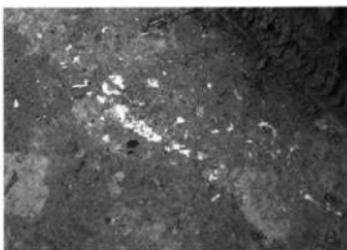


遺物（須恵器）検出状況

図版3 葎田2遺跡(1)



T T 4 調査状況 (北へ)



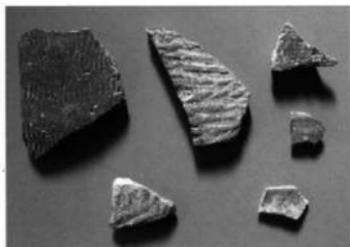
T T 8 検出白色火山灰 (十和田 a)



通称「堀田」現況 (南へ)



T T 3 土層断面 (南へ)



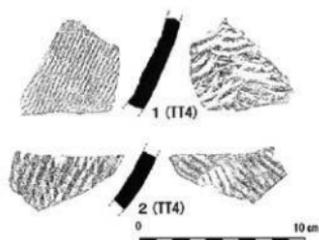
出土遺物 (須恵器)



同左 裏面



出土遺物 (赤焼土器)



第6図 藤田2遺跡 須恵器拓影圖 (1/3)

(4)野村清水遺跡 (遺跡番号1746)

所在地 鶴岡市大字東堀越字郷の浜

調査員 高橋 敏

調査期日 平成18年9月7日(表面調査) 11月17日(試掘調査)

起因事業 ふじの里東部地区中山間地域総合整備事業(東栄ため池建設)

遺跡環境 出羽丘陵の西麓に位置する。標高は55mを測り、地目は樹園地・畑地・
荒蕪地である。

試掘区 事業予定地の遺跡範囲に試掘トレンチ5ヶ所・試掘坑を6ヶ所を設定し
た。

試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含
層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確
認を行った。

試掘面積 88㎡

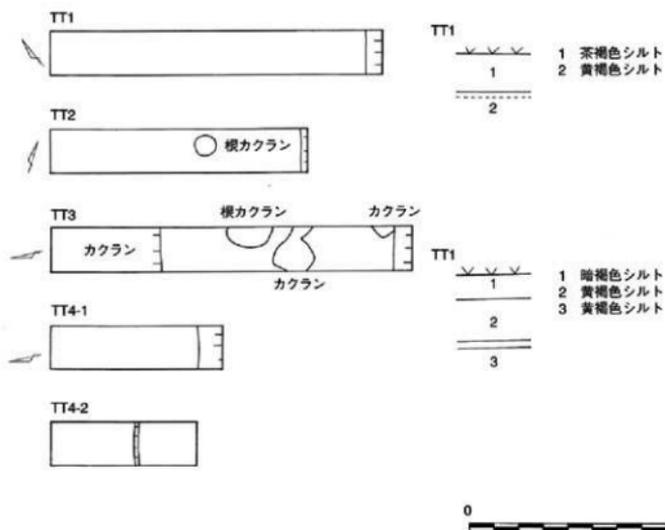
検出遺構 TP4から時期不明のピット

出土遺物 なし

所見 ため池用地及び農道にかかる部分について調査した。TT3から産業廃
棄物が埋設されているのが確認されたほかは遺構遺物は確認されない。TP4から時期不
明のピット1基、TP5・TP6から現代のピット痕1基を検出したが、遺物は出土して
いない。野村清水遺跡の事業範囲に掛かる範囲については、縁辺部であり工事による影響
は少ないと判断される。



第7図 野村清水遺跡調査概要図



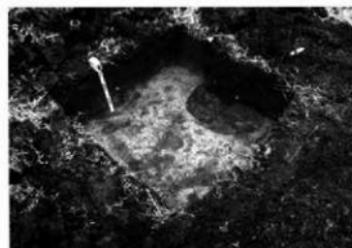
第8図 野村清水遺跡調査平面図・断面図



遺跡近景 (南へ)



トレンチ調査状況



遺構 (柱穴) 検出状況



土層堆積状況

図版5 野村清水遺跡

(5) ^{おみでら}上の寺遺跡(平成15年度新規登録)

所在地 山形県寒河江市慈恩寺上の寺

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年11月16日

起因事業 農免農道整備事業(寒河江中央地区)

遺跡環境 慈恩寺境内から東へ約1km、緩斜面となる山麓一帯に大小の曲輪群からなる上の寺遺跡が所在する。これら曲輪群の中心は規模の大きな土塁を伴う「開持院」跡と目される通称「寺屋敷」部分と推測され、平成17年度の調査によって寺跡に係わる建物跡や中国元代の青磁花瓶などが見つかった。

調査区 鬼(御荷)越坂の手前から分岐して上の寺へと向かう通称「箕輪道」の基点部分西側に沿う計画路線内を主な調査対象区とした。

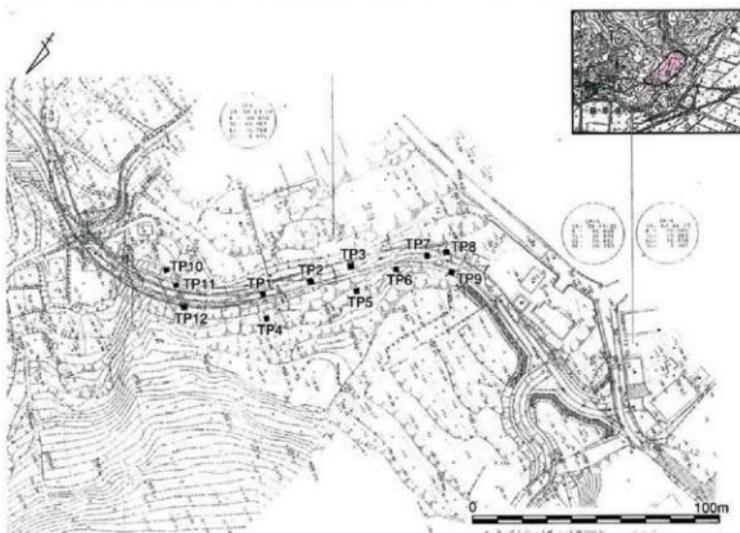
調査方法 1×1mの試掘坑を12箇所設け、人力で掘下げと面整理・面精査を実施した。

調査面積 12㎡

検出遺構 整地を伴う南北方向に細長い2～3段の曲輪群

出土遺物 なし

所見 東向き斜面に2～3段で南北方向に走る曲輪群が認められ、明らかに人為的な所産と判断された。試掘結果から、山側の表土が削られ、谷側の斜面上に盛り上げることで平坦面を形成していることを確認できたが、その造成時期は明確でない。



第9図 上の寺遺跡調査概要図



調査対象区透景（東→）



調査風景（南→）



上段の帯曲輪（南東→）



試掘坑（曲輪盛土部分）



試掘坑断面（T T 5）

(6) 上野遺跡

所在地 山形県南陽市大字上野字上野

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年10月16日

起回事業 農地環境機能整備事業（上野地区）

遺跡環境 南陽市街から北西1.5km、標高235mの高台に位置する縄文時代一中世までの複合遺跡。地目は果樹園、畑地、水田である。

調査区 農道の新設範囲内を対象として南北方向のトレンチ5本を入れた。

調査方法 重機を用いてトレンチ内の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。

調査面積 47㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

所見 調査地区は上野遺跡の東側にあたり、遺跡中心部から続く一連の段丘面の東端に位置している。調査は重機の入る範囲内で限定的に行い、計画路線に沿うトレンチ5本を設定して行っている。その結果、いずれのトレンチでも遺構・遺物は検出されなかった。また、TT4・5の範囲内では地山を掘り込んで設置された葡萄棚のアンカーが多数認められ、これまでにかなり攪乱や削平の行われている様子が確認できた。



第10図 上野遺跡調査概要図



調査区全景 (北へ)



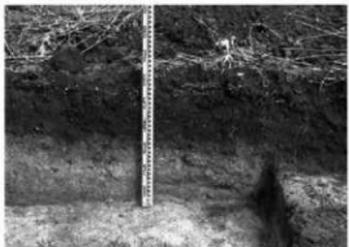
TT 2 トレンチ全景 (西へ)



TT 2 北側壁面 (南へ)



TT 3 全景 (西へ)



TT 3 北側壁面 (南へ)

(7)泉興野1遺跡 (平成18年度新規登録)

所在地 酒田市大字泉興野字

調査員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年11月27日～28日

起回事業 主要地方道酒田松山線改築事業 (飛鳥バイパス)

遺跡環境 酒田市飛鳥の市街地の北側約300mの自然堤防状の高まりに位置する。標高は9mを測り、地目は水田・畑地である。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所設定した。

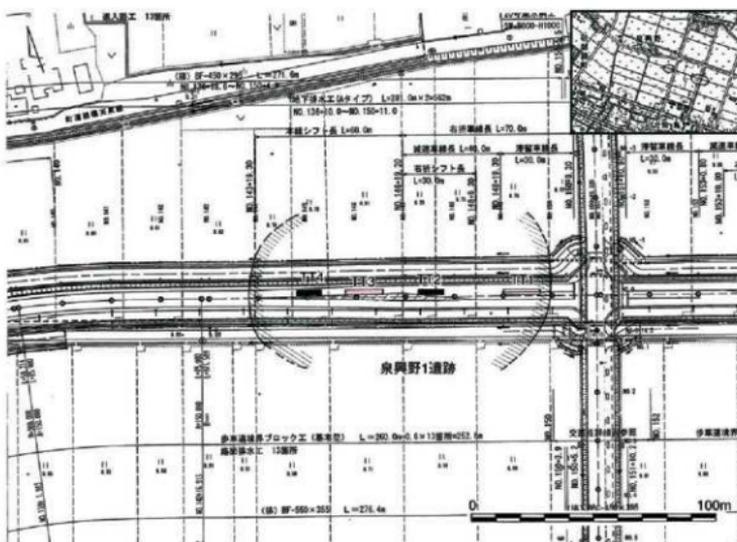
試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 75㎡

検出遺構 TT1から ビット 土色変化

出土遺物 TT3より須恵器片 赤焼土器片

所見 現地は水田・転作のまめ畑となっている。設定したトレンチの内TT1から土色変化と時期不明のビット1基を検出した。TT3から土器片が出土した。また道路予定地範囲内の畑地から遺物が採集された。堆積土の状況から過去の圃場整備等により大部分が削平されたものと考えられる。



第11図 泉興野1遺跡調査概要図

てんじんどうびやくのついで
(9)天神堂大坪遺跡 (平成18年度新規登録)

所在地 酒田市大字砂越字大坪

調査員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年11月27日～28日

起回事業 主要地方道酒田松山線改築事業 (飛鳥バイパス)

遺跡環境 酒田市飛鳥の市街地の北側約300mの自然堤防状の高まりに位置する。標高は9mを測り、地目は水田・畑地である。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所設定した。

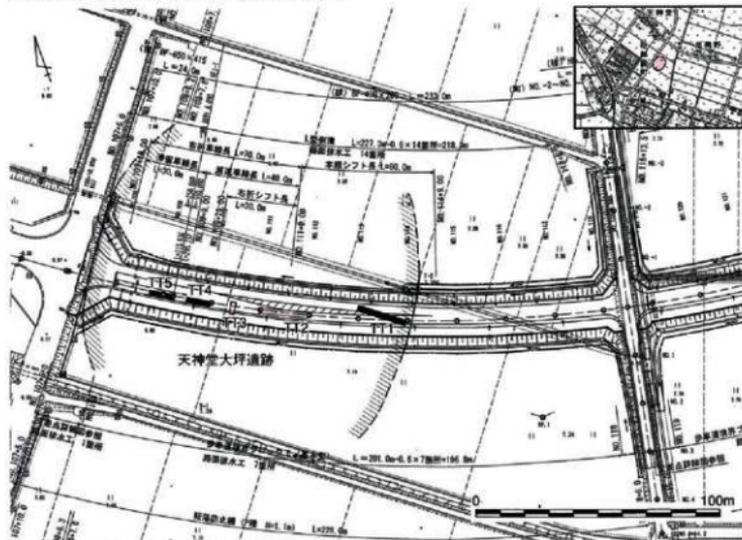
試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 97.5㎡

検出遺構 TT2 TT3から ビット (時期不明)

出土遺物 TT2 TT3より須恵器片 赤焼土器片

所見 現地は水田・転作のまめ畑となっている。設定したトレンチの内2ヶ所から須恵器片・赤焼土器片、時期不明の杭が出土した。TT2、TT3から時期不明のビットが検出された。また道路予定地範囲内の畑地から多くの遺物が採集された。過去の圃場整備等により大部分が削平されたものと考えられるが、北側に位置する大宰府神社付近には遺構が保存されている可能性が高い。



第13図 天神堂大坪遺跡調査概要図



天神堂大坪遺跡近景 (西←)



泉興野 1 遺跡 TT1 全景 (西←)



泉興野 2 遺跡 TT2 全景 (西←)



泉興野 2 遺跡 TT3 土層断面 (南←)



天神堂大坪遺跡 TT2 全景 (西←)

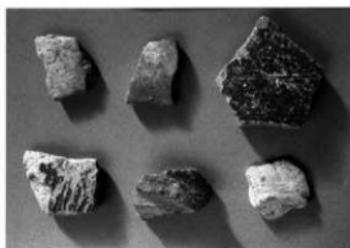
図版 8 泉興野 1・2 遺跡, 天神堂大坪遺跡



泉興野1遺跡近景(東一)



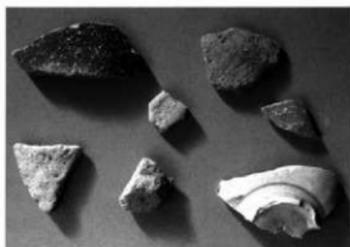
泉興野2遺跡近景(西一)



泉興野1遺跡出土遺物



泉興野1遺跡出土遺物

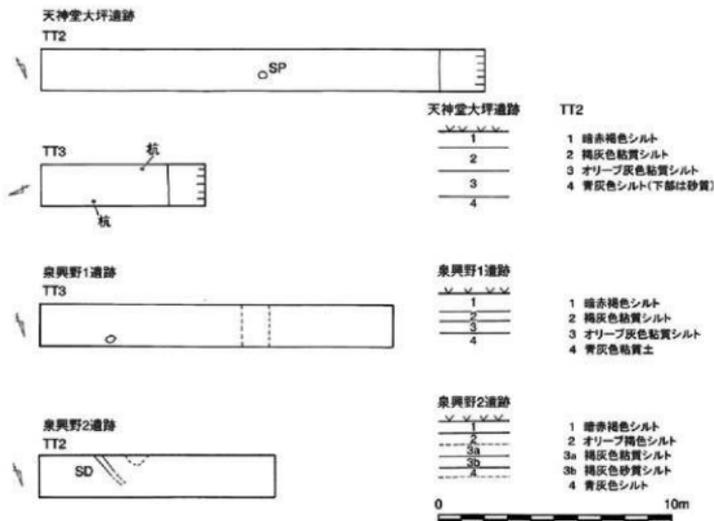


泉興野2遺跡出土遺物



天神堂大坪遺跡出土遺物

図版 10 泉興野1・2遺跡, 天神堂大坪遺跡



第 14 図 泉興野1・2遺跡, 天神堂大坪遺跡調査平面・断面図

(10) ^{鳥羽町野田}野田箆手刀出土地 1

所在地 山形県東根市大字野田 302

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年5月30日 11月9日・10日

起回事業 一般県道長瀬野田線道路改良工事

遺跡環境 調査地は東根市郡山と野田の境界付近に位置している。郡山は古代村山郡の郡衙擬定地ともなっており、付近には平安時代の野田中島遺跡も近接している。

調査区 5月の調査では国道287号と交叉する地点の国道を挟む南北2地点にTT1～TT4のトレンチを設定した。また、11月の調査では市道野田1号線から北側の路線数部分を対象として、トレンチTT1～TT6、試掘坑TP1～11を設定して調査している。

調査方法 トレンチは重機を用いて表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。試掘坑は掘下げ、面精査共に人力で行っている。

調査面積 72.8㎡(5月調査) 161㎡(11月調査)。

検出遺構 11月調査TT1(柱穴3)、TT5(河川跡1)、TP6(柱穴1)。

出土遺物 5月調査TT3(須恵器片1)、TT4(土師器片1)、11月調査TT5(土師器片、火山灰等)。

所見 市道野田1号線に近いTT1の南半部分では遺物等の出土はなかったものの、柱穴若干が認められた。また、TT5では河川跡に流れ込んだ赤焼土器等の遺物が見られた。



第15図 野田箆手刀出土地1調査概要図

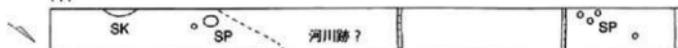
野田蕨手刀出地1 (その1)

TT3



野田蕨手刀出地2 (その2)

TT1

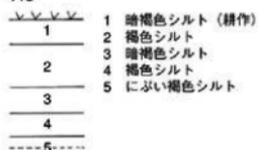


TT5

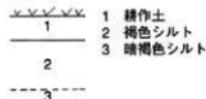


0 10m

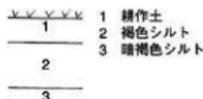
TT3



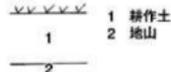
TT2



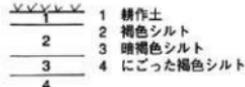
TT3



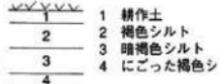
TP4



TP5



TP5



0 1m

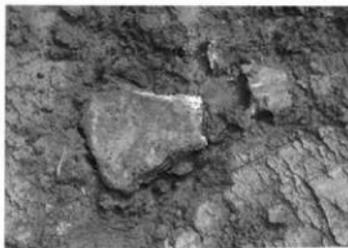
第16図 野田蕨手刀出地1調査平面図・断面図



調査対象区風景（南東→）



調査風景（東→）



TT 3 須恵器出土状況



TT 3 土層断面（南→）



TT 4 河川跡検出状況



調査区近景 (南→)



TT2調査状況 (北→)



支線部分の試掘状況 (北→)



TP6柱穴検出状況



TP5土層断面



TT4調査状況 (南→)



TT6調査状況 (南東→)



TT6調査状況 (西→)



TT6河川跡底面の焼土層



TT6土層観察 (南→)



支線との交差点部分の調査(東へ)



支線部分の試掘状況(南西へ)



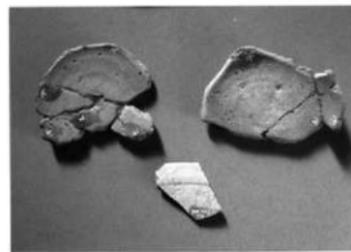
支線部分の試掘坑(TP7)



支線部分の試掘坑(TP8)



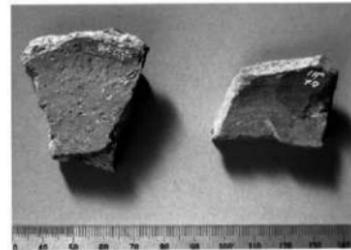
TT5出土土器



同左 内面



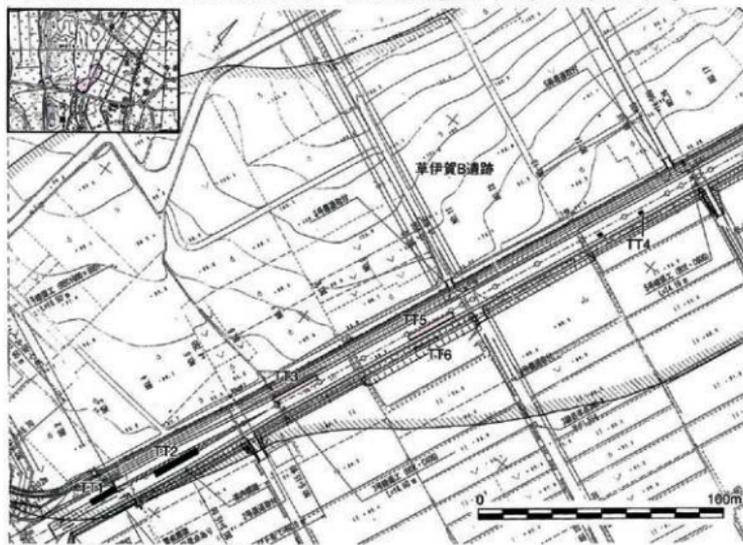
第1次調査TT3出土須恵器



同左 内面

(11)草伊賀B遺跡 (分7-24-22)

所在地	村山市大字名取草伊賀
調査員	高橋 敏 丸吉繁一
調査期日	平成18年5月10日
起因事業	一般県道東根長島線道路改良事業
遺跡環境	楯岡の市街地の西方、河島山の東麓縁に位置する。標高97m、地目は水田・畑地となっている。
試掘区	事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所、試掘ピット2ヶ所を設定。
試掘方法	重機+人力で試掘調査を行った。
試掘面積	112.5㎡
検出遺構	なし
出土遺物	TT3から須恵器片、TT5・TT6から土師器片・須恵器片が出土
時代	平安時代
所見	TT1・2・4を設定した箇所は水田となっており、固くしまった黄褐色シルトの地山層となっている。TT3では整地土層上面の攪乱から須恵器片が出土、TT5・6の地点は周囲よりも2mほど高い位置にあり表面踏査では須恵器片土師器片が採集された。試掘したが顕著な遺構を確認することはできなかった。出土した遺物は東側の丘陵からの流れ込みと考えられる。試掘を実施した路線の範囲については以前の耕地整理による削平をうけており、またTT5・6の畑地は遺跡の中心域とは考えにくい。



第17図 草伊賀B遺跡調査概要図



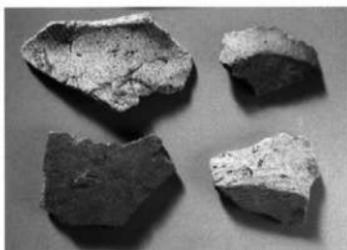
TT3 トレンチ全景 (南へ)



出土遺物 (須恵器)

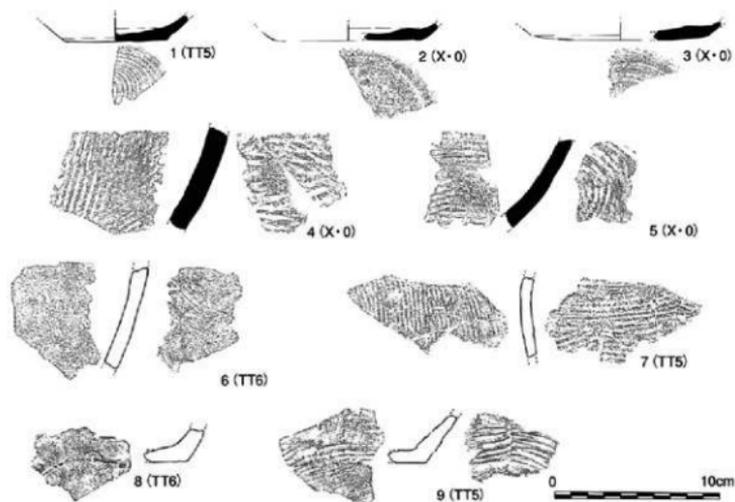


土層堆積状況



出土遺物 (土師器)

図版 15 草伊賀B遺跡



第18図 草伊賀B遺跡出土遺物実測図

(12)石橋遺跡 (平成18年度登録)

所在地 天童市大字貫津字石橋

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年6月1日(試掘) 11月6日(立会)

起回事業 住宅団地造成事業(天童市貫津地区)

遺跡環境 天童市の市街地南方、約2kmの平坦地の自然堤防上に立地する。標高は115mを測る。地目は水田である。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを7ヶ所を設定した。

試掘方法 重機により表土除去及び遺構検出でないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 228㎡

検出遺構 遺構確認面は地表面下40～110cm。

TT1-1～3	河川跡、ピット、溝状遺構	TT5	なし
TT2-1～3	河川跡、ピット	TT6	柱穴
TT3-1・2	ピット	TT7	なし
TT4	ピット 落ち込み		

出土遺物 TT1～TT4から須恵器片・土師器片・陶磁器片が出土。TT5・TT6から土師器片が出土した。

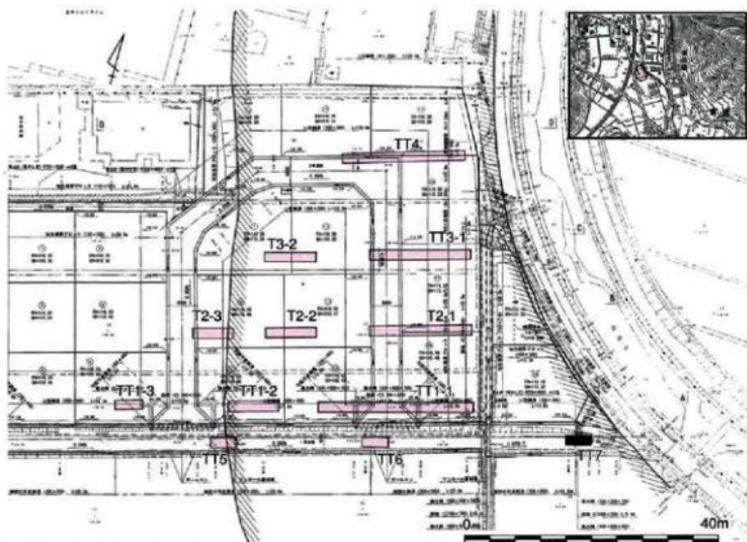
時代 平安時代

所見 住宅団地予定地及び農道拡幅工事予定地に設定した12本のトレンチのうち10本から柱穴や溝跡・河川跡と思われる土色変化が確認された。TT1-1の東端、地表面下80cmの深さで東西に幅7mにわたり河川跡の落ち込みを、河川跡の西ではピット2基を確認した。この河川跡内からは土師器片・須恵器片が多く出土した。TT1-2では中央部付近で土色変化を確認したが遺構かどうかは不明である。調査したトレンチのTT1～TT4から須恵器片・土師器片が出土した。立会調査を実施した農道部分は水田面より遺構の確認面が30cmほど上であり、水田面は以前の圃場整備により地山面が削平されている状況が窺えた。立会調査のトレンチからは柱穴1基と土師器の破片資料が検出された。遺跡範囲内の農道拡幅工事部分については発掘調査が必要である。



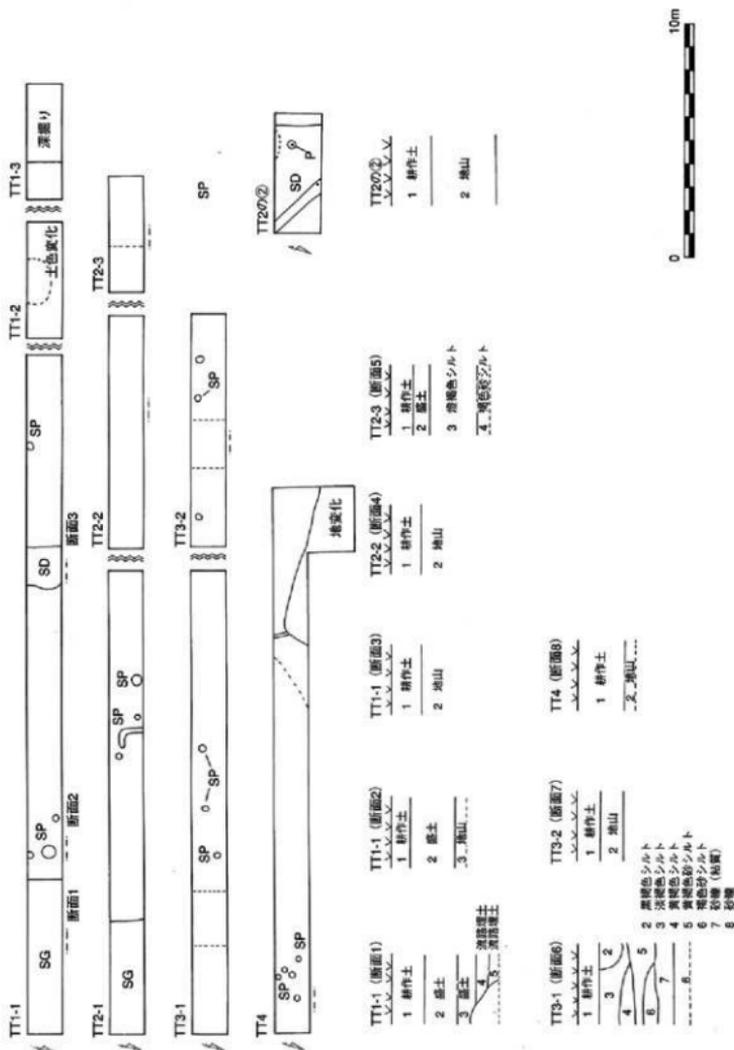
図版 16 石橋遺跡 (1)

遺跡近景 (南西→)



第 19 図 石橋遺跡調査概要図

第20図 石橋遺跡調査平面・断面図





遺跡近景 (西→)



試掘調査状況 (西→)



試掘調査 TT 1-1 柱穴検出状況 (東→)



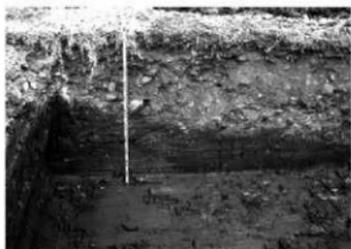
TT 1-1 柱穴検出状況 (東→)



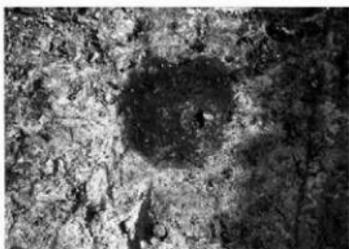
道路予定地立会調査状況 (南西→)



TT 2-3 全景 (東→)



TT 3 土層断面 (南→)



TT 2-1 柱穴検出状況

(13)天矢場遺跡 (平成18年度新規登録)

所在地 南陽市大字川樋字天矢場

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年4月20日 9月21日

起回事業 国道13号上山バイパス改築事業(中川工区)

遺跡環境 赤湯の市街地の北東約6km、射撃場南側の小扇状地扇尖部に立地する。標高は285mを測る。地目は畑地・樹園地・宅地である。

試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ11カ所設置。

試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

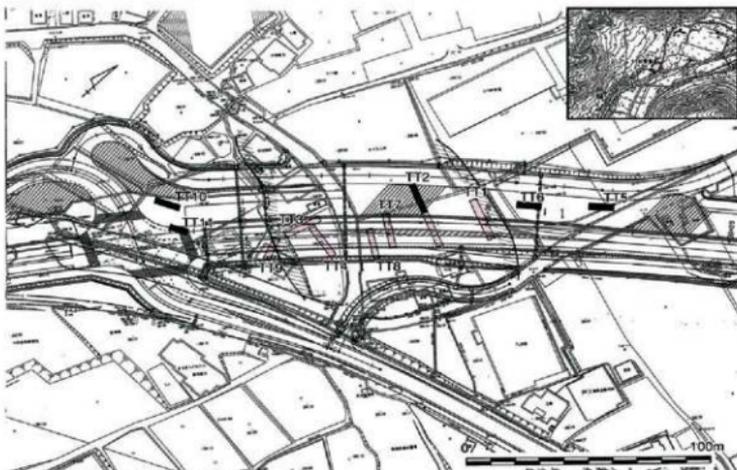
試掘面積 240㎡

検出遺構 TT1～TT9からピット・土壌・溝跡を検出。TT10・TT11から河川跡を検出した。

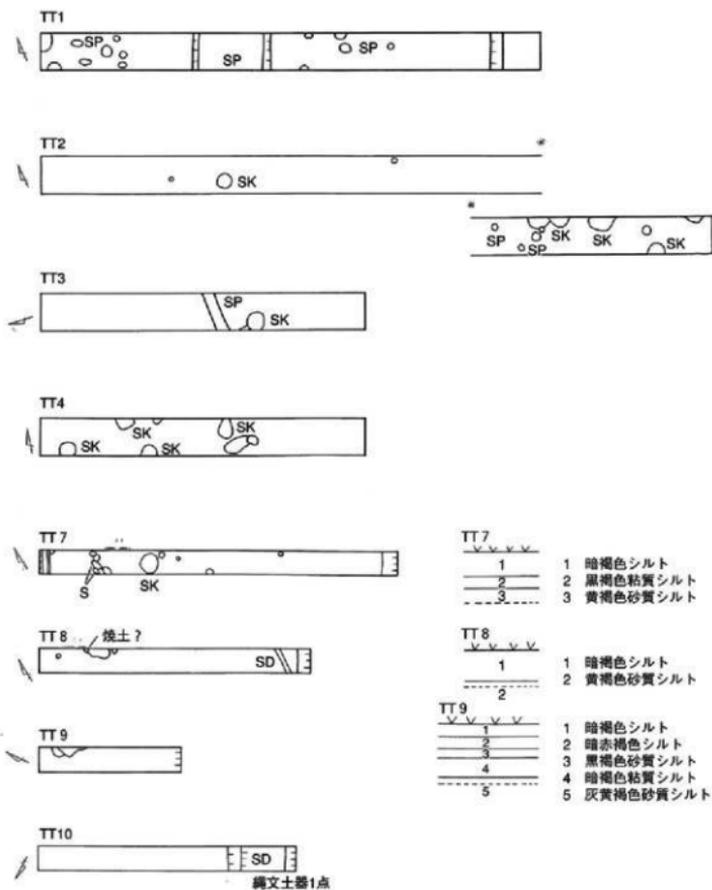
出土遺物 TT1・TT2・TT5～TT8 から土師器片出土。TT11から縄文土器片出土。

時代 縄文時代・平安時代

所見 設定したトレンチ11本のうち9本から柱穴や溝跡・土壌が検出された。表土下20cm～30cmで遺構を確認することができ、西側で浅く、東側ほど深くなる傾向が認められる。TT10・TT11では自然の河川跡と思われる大きな落ち込みが確認された。平成19年度(財)山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第21図 天矢場遺跡調査概要図



第21図 天矢場遺跡調査平面図・断面図



遺跡近景 (西→)



調査風景 (東→)



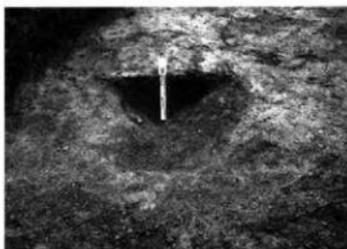
TT 2 遺構検出状況 (西→)



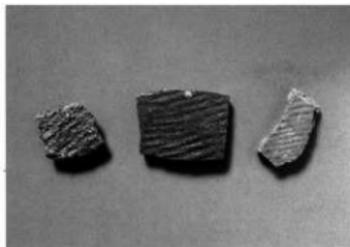
TT 4 全景 (西→)



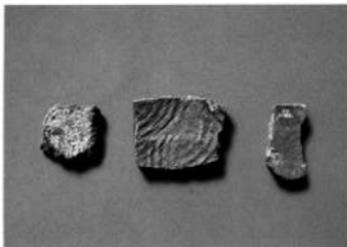
TT 2 土層断面 (南→)



TT 4 検出土坑 (東→)



出土遺物 (縄文土器・須恵器)



同左内面

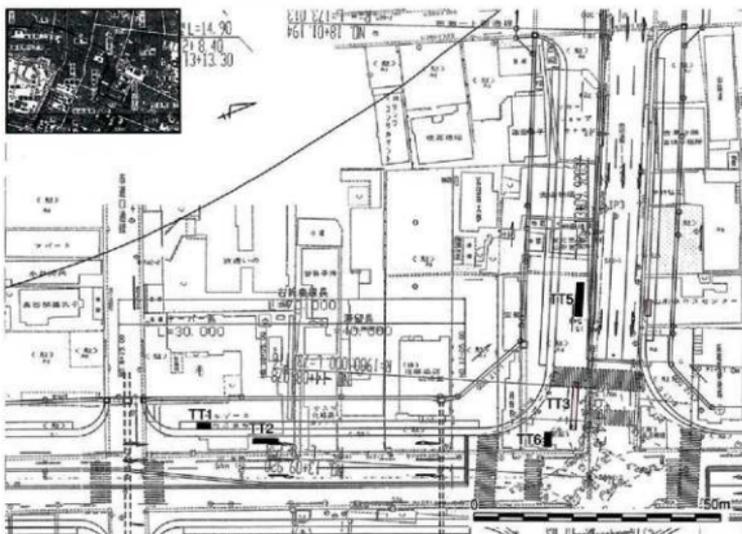
図版 19 天矢場遺跡 (2)



第 23 図 天矢場遺跡出土土器拓影図

山形市三ノ丸の調査
(14)山形城三ノ丸(201-002)

- 所在地 山形市旅籠町
調査員 高橋 敏 丸吉繁一
調査期日 平成18年12月7日 8日
起回事業 一般国道112号霞城改良(旅籠町交差点改良)
遺跡環境 山形市街地の中心、山形城二ノ丸の北東に位置する。標高は125mを測る。地目は宅地である。
試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ6ヶ所を設定した。
試掘方法 重機及び人力で試掘調査を実施した。宅地・商業地のため水道管・ガスパ管等へ配慮し、地中の状況を慎重に観察しながら調査した。
試掘面積 46.5㎡
検出遺構 TT3より時期不明のピット
出土遺物 TT3 TT4より陶磁器片
所見 TT1・2からマンションのコンクリート基礎が検出された。TT2の東側からは現表土の約1.3m~1.4mで暗黄褐色砂の地山面が確認され、時期不明のピットが3基検出された。精査したが遺物は出土しない。中層に近現代と思われる陶磁器片や焼土及び炭を多量に含む層が観察されたが、明治以降の市内大火に由来すると考えられる。工事予定地は山形城三ノ丸の範囲外と判断される。工事が山形城三ノ丸堀推定線また三ノ丸内部へ入る場合は追加の試掘調査が必要である。



第24図 山形城三ノ丸調査概要図



調査区近景 (北へ)



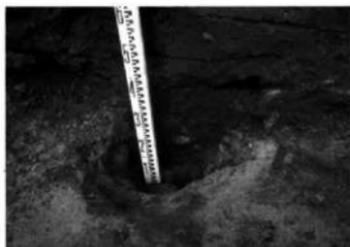
TT 3 トレンチ完掘状況 (東へ)



TT 5 全景



TT 3 土層断面



TT 3 トレンチ検出柱穴



出土遺物 (須恵器)



出土遺物 (陶磁器)



出土遺物 (磁器)

(15) 遠磨寺遺跡

所在地 山形県東村山郡大字遠磨寺字遠磨寺

調査員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年8月31日

起因事業 須川(下流部)河川改修堤防拡張事業

遺跡環境 遺跡は須川が形成した左岸側の自然堤防上に立地していると考えられ、その範囲は南北300m以上、東西幅150mほどと推測される。これまでに、東北横断自動車道や河川改修事業を契機として2度の発掘調査が行われ、須川を利用した舟運に関連した古代と中世の遺跡内容が明らかにされている。

調査区 堤防の嵩上げによって拡張が予定される河川敷内を調査対象とし、現堤防東側の拡張ラインに沿って幅1.5m、長さ35mのトレンチを設定した。

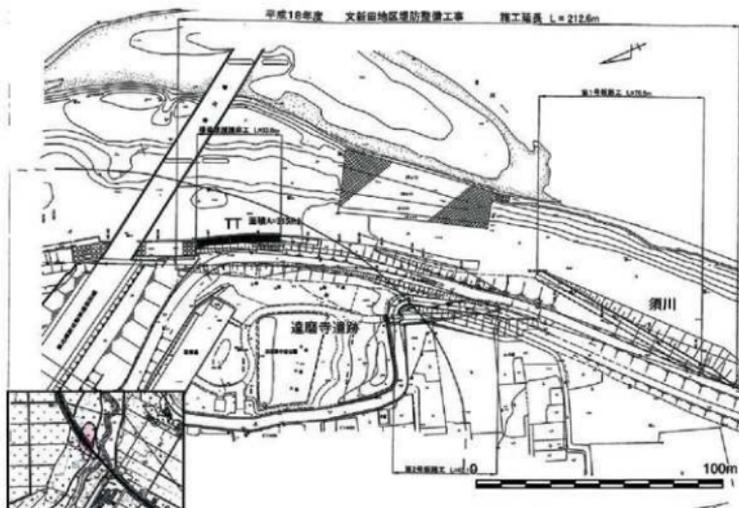
調査方法 重機を用いてトレンチ内の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。

調査面積 52.5㎡

検出遺構 トレンチ北側端の部分に、幅40cm前後の溝跡1基を検出した。

出土遺物 須恵器破片1点。

所見 トレンチ北側で検出された溝跡以南には何らの遺構も見当たらないことから、今回調査対象とした部分は遠磨寺遺跡の南東端に当たると考えられる。



第25図 遠磨寺遺跡調査概要図



調査対象区近景 (南へ)



溝跡検出状況 (北へ)



調査トレンチ (南へ)



土層断面 (ゴミの埋立形跡)



深掘区の土層断面

(16) 檜原遺跡 (平成8年度登録)

所在地 南陽市大字西落合字檜原

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年8月29日

起因事業 国道113号線赤湯バイパス改築事業

遺跡環境 宮内の市街地南西約2km、上無川の自然堤防上に立地する。標高は222mを測る。地目は樹園地・畑地・水田である。

試掘区 事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチを4ヶ所を設定した。

試掘方法 計画区域について、重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 137㎡

検出遺構 TT1から土壌や河川跡を検出、TT2から溝跡や河川跡を検出。遺構遺物確認面は30～50cm。

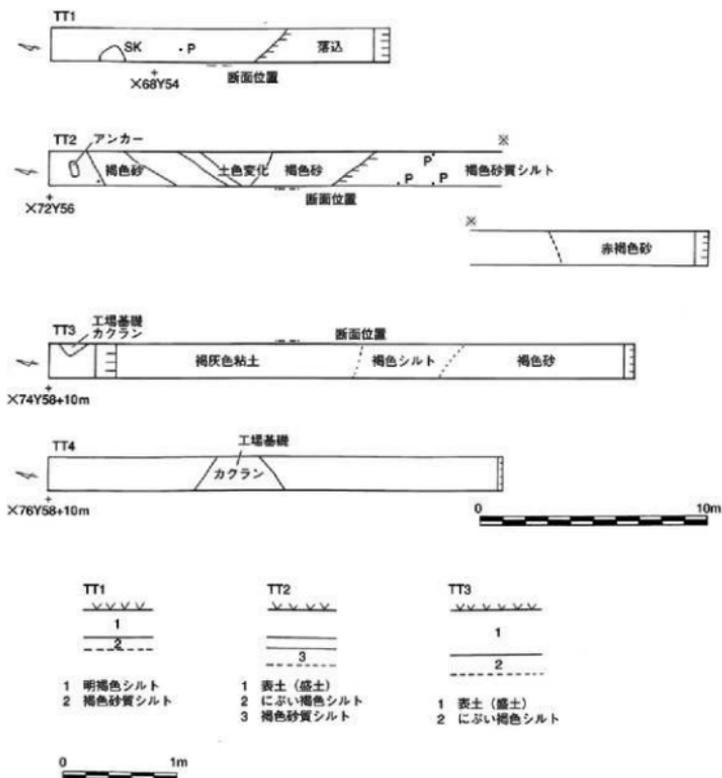
出土遺物 TT1・TT2・TT3から土師器片が出土。

時代 縄文時代・平安時代

所見 設定した4本のトレンチのうち2本から土壌や溝跡・河川跡と思われる土色変化が確認された。またTT1～TT3から土師器片が出土した。平成18年・平成19年度(財)山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第26図 檜原遺跡調査概要図



第27図 榑原遺跡調査平面・断面略図



遺跡近景 (西へ)



TT 4 調査風景 (北へ)



TT 2 トレンチ全景 (北へ)



TT 3 トレンチ全景 (北へ)



TT 2 土師器出土状況



TT 2 土師器坏出土状況



TT 2 溝跡検出状況 (東へ)



TT 3 調査状況 (北へ)



TT 1 調査状況 (東へ)



出土遺物 (土師器)

(17) 上大作裏遺跡 (平成8年度登録)

所在地 山形県南陽市大字砂塚字大作裏

調査員 阿部明彦

調査期日 平成18年10月12日・13日

起因事業 国道113号南陽バイパス改築事業

遺跡環境 南陽市砂塚地区の北300mの河岸段丘に位置する。標高は220m内外で、地目は樹園地、畑地、一部水田となる。

調査区 道路予定地内に係る旧畑地、宅地等を対象として12本のトレンチを設定した。

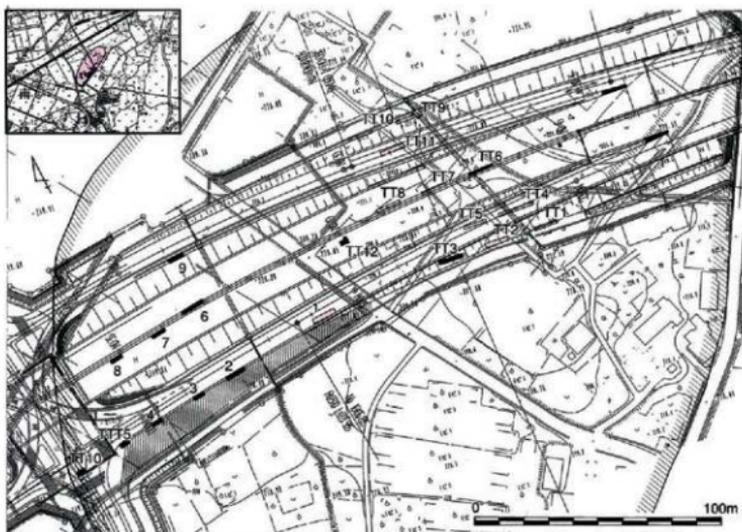
調査方法 重機を用いてトレンチ内の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施して遺構・遺物の分布を確認した。

調査面積 180㎡

検出遺構 トレンチTT1、TT2、TT5、TT7～TT9、TT11の7トレンチから土坑や柱穴群などの遺構を検出した。また、TT4(縄文土器)、TT10(平安時代の須恵器)からは遺構に伴って各々遺物も散見され、遺構の帰属時期が推測された。

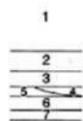
出土遺物 縄文土器・石器・須恵器・土師器

所見 調査区域は遺跡の西半部に当たると考えられ、出土遺物から縄文と平安の複合遺跡と判断される。なお、TT4・TT5では地山と考えられた砂質土層の下から厚さ20cmほどのクロボクが検出され、遺跡南東域の一部は洪水等の影響を受けたと判断された。



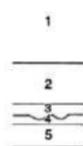
第28図 上大作裏遺跡調査概要図

TT1



- 1 盛土
- 2 暗褐色シルト (耕作土)
- 3 黒褐色砂質シルト
- 4 暗灰黒色砂質シルト
- 5 暗灰黒色シルト
- 6 暗灰黒色砂質シルト
- 7 灰黒色砂質シルト

TT2



- 1 盛土
- 2 暗褐色シルト (耕作土)
- 3 黒褐色シルト
- 4 青灰色シルト
- 5 暗黄褐色砂質シルト

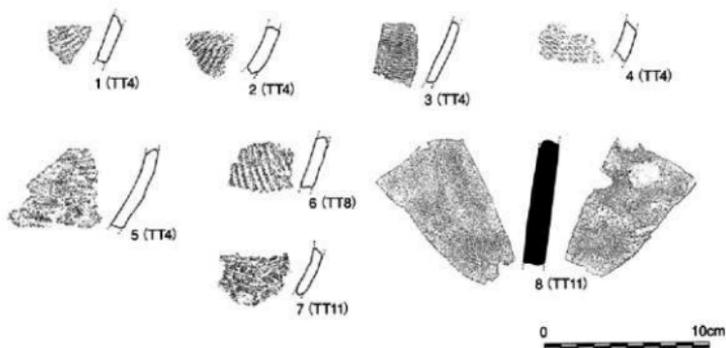
TT2



- 1 盛土
- 2 暗褐色シルト (耕作土)
- 3 黒褐色砂質シルト
- 4 暗灰黒色シルト
- 5 暗灰黒色シルト
- 6 暗灰黒色砂質シルト
- 7 青灰色砂質シルト
- 8 青灰色砂



第29図 上大作裏遺跡調査断面図



第30図 上大作裏遺跡出土土器拓影図



調査対象区近景 (東へ)



TT1 調査風景 (西へ)



TT1 検出柱穴



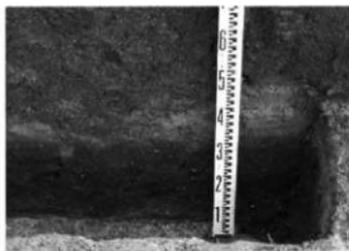
TT2 トレンチ全景 (西へ)



TT3 検出遺構



TT3 トレンチ全景 (東へ)



TT4 トレンチ土層断面



TT4 トレンチ全景 (西へ)



TT8 トレンチ全景 (東へ)



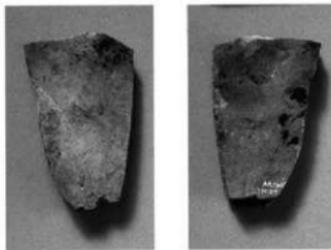
TT10 全景 (東へ)



TT10 遺物出土状況



出土遺物 (TT4 他)



TT10 出土遺物 (須恵器)

(18) 堤屋敷遺跡 (平成16年度登録)

所在地 米沢市大字万世町字堤屋敷

調査員 阿部明彦 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 試掘調査 平成18年10月26日 27日

起因事業 東北中央自動車道米沢IC付帯工事

遺跡環境 米沢市街地から南東約5kmの河岸段丘上に立地する。標高は270mを測る。地目は宅地・畑地・水田である。

試掘区 高速道路インターチェンジ建設区域内に13ヶ所のトレンチを設定した。

試掘方法 重機により表土除去を行い、徐々に掘り下げてトレンチ壁底面の精査を行い、遺構・遺物の確認を行った。

試掘面積 173㎡

検出遺構 ビット 柱穴

地表面下30cm～60cm

出土遺物 縄文土器・土師器・須恵器

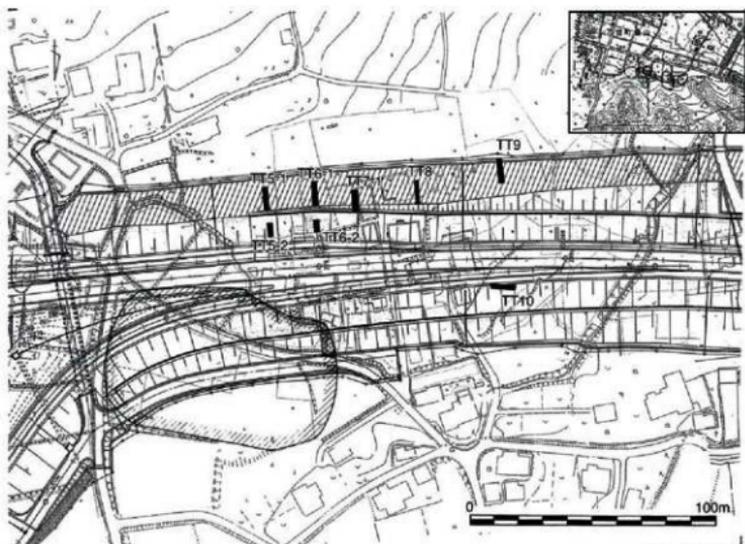
所見 TT1～TT4は堤屋敷遺跡周辺、TT5～TT10は下屋敷遺跡の周辺に設定した。TT1・2では柱穴や礎石が見られた。TT3・4は山裾にあたる部分である。TT3では溝状遺構を検出、須恵器片が出土した。TT4からは縄文土器片が出土した。TT5～TT9では遺構遺物は確認できなかった。



遺跡近景 (南西へ)

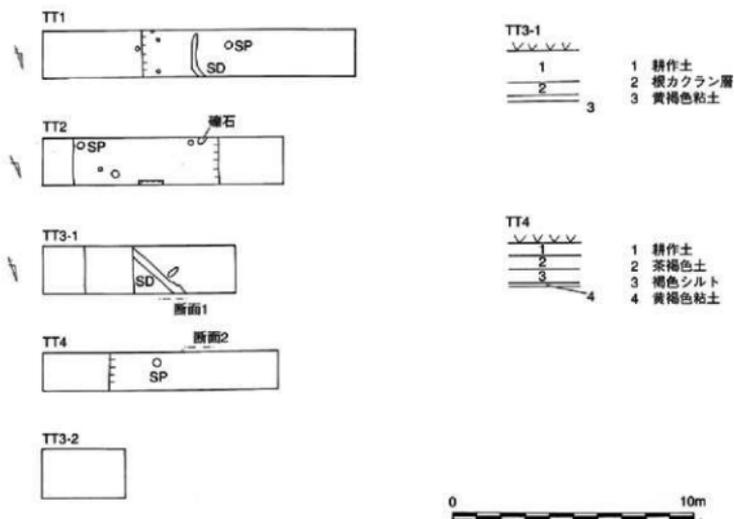


(1) 堤屋敷遺跡

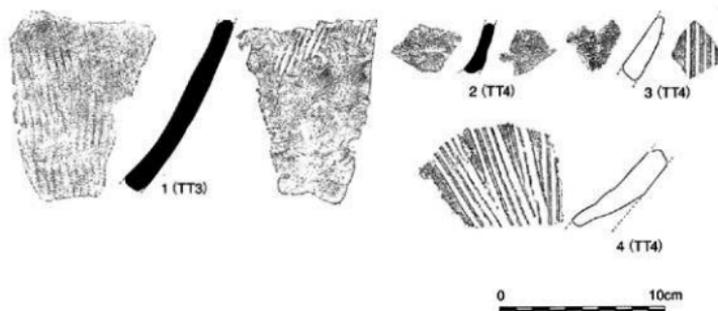


(2) 下屋敷遺跡

第31圖 堤屋敷遺跡，下屋敷遺跡調査概要図



第32図 堤屋敷遺跡調査平面・断面略図



第33図 堤屋敷遺跡出土土器拓影図



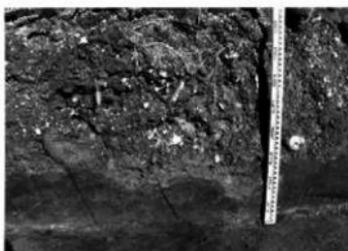
遺跡通景 (東へ)



TT 1 全景 (東へ)



TT 2 トレンチ全景 (東へ)



TT 1 トレンチ土層断面 (南へ)



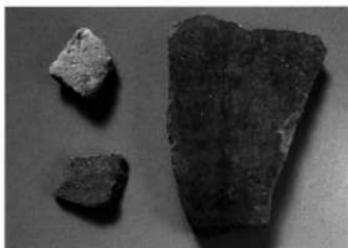
TT 7 トレンチ全景 (北へ)



TT 4 トレンチ土層断面 (南へ)



出土遺物 (土師器他)



出土遺物 (須恵器・土師器)

(19) 川内袋遺跡

所在地 山形県鶴岡市大字五十川字川内袋

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年10月25日

起因事業 日本海沿岸東北自動車道（鶴岡～温海間）

遺跡環境 県道から坂道を登った位置にある旧水田は、開田工事の際に大量の縄文時代の土器や石器が出土した地点である。その北側には緩い傾斜面が続き、その上面はやや広い平坦面となっているが、昨年実施した試掘の結果、遺物等の痕跡は少ないながら遺跡を構成する一画と判明している。

調査区 旧水田部分、水田に続く傾斜面地の旧畑地、斜面上の平坦面を各々調査対象区として選定し、重機の入る旧水田部分以外は人力による試掘調査を行った。

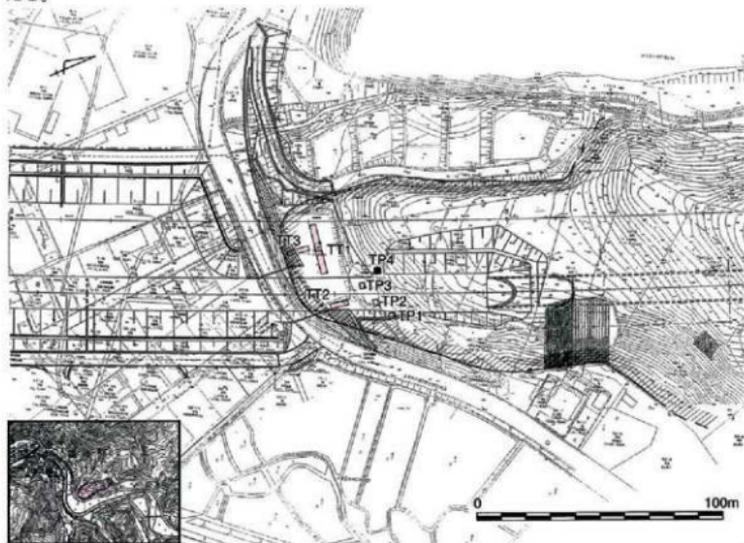
調査方法 1.5m×20m (TT1)、1.5m×10m (TT3)、1.5m×7m (TT2)のトレンチ3本を設けて遺構・遺物を確認した。また、斜面地には試掘坑 TP1～4を設けている。

調査面積 60㎡

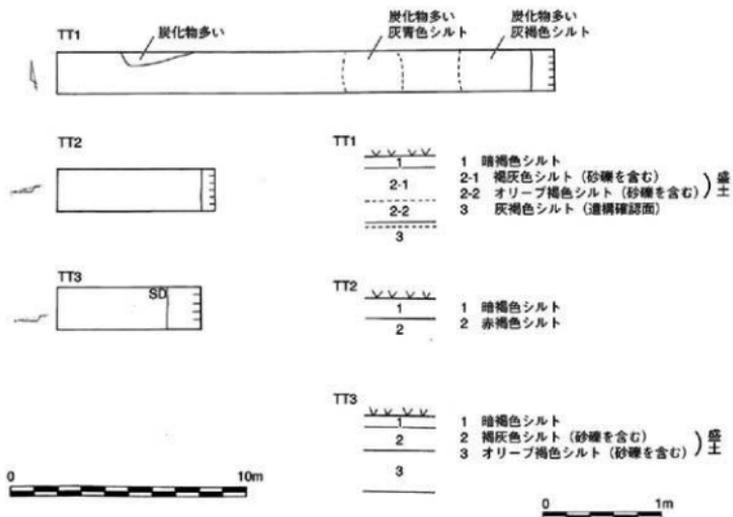
検出遺構 柱穴、土坑、遺物包含層

出土遺物 縄文土器（前期後葉）、石器

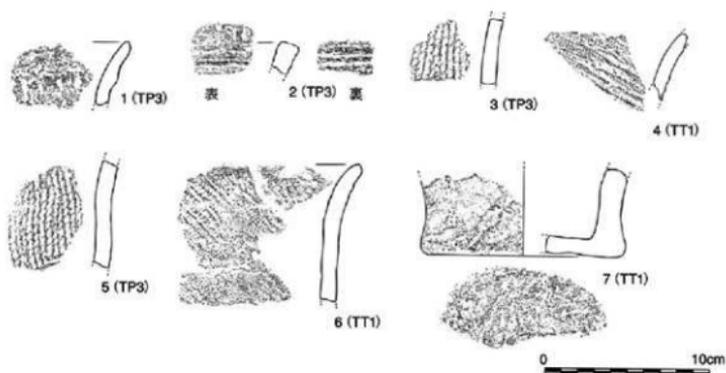
所見 遺跡は南北に延びる尾根筋を占地し、開田された水田部分は包含層を形成した地点と考えられる。集落本体は今の所不明であるが、上段の平坦面は候補の一つと言える。



第34図 川内袋遺跡調査概要図



第35図 川内袋遺跡調査平面、断面図



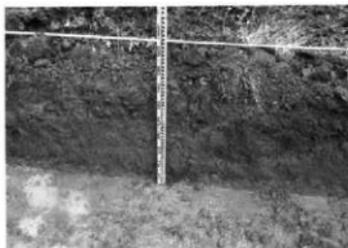
第36図 川内袋遺跡出土土器拓影図



遺跡遺景 (南へ)



TT1トレンチ (東へ)



TT1トレンチ土層断面 (南へ)



TT2トレンチ (南へ)



TT2トレンチ土層断面 (南へ)



TT3トレンチ全景 (南へ)



TT3トレンチ土層断面 (西へ)



緩斜面の試掘状況



TP2試掘坑



TP3試掘調査風景 (南東へ)



TP4調査状況 (東へ)



出土遺物 (縄文土器)



出土遺物 (石器)

(20)南田遺跡 (平成17年度登録)

所在地 鶴岡市大字清水新田字南田

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 試掘調査 平成18年10月12日

起因事業 日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間

遺跡環境 清水新田集落の東側に位置し、清水新田遺跡の南東に隣接している。遺跡立地は自然堤防上と考えられるが、調査対象域の東端には泥炭層の広がりが見られることから、調査域は自然堤防と後背湿地との境界付近に位置していると判断できる。

試掘区 高速道路センターラインNo. STA301と301+20を結ぶラインを基準として、西側に10m・20mそれぞれ離れたTT1とTT2と東に10m離れたTT3の3本のトレンチを設定し、調査を行った。

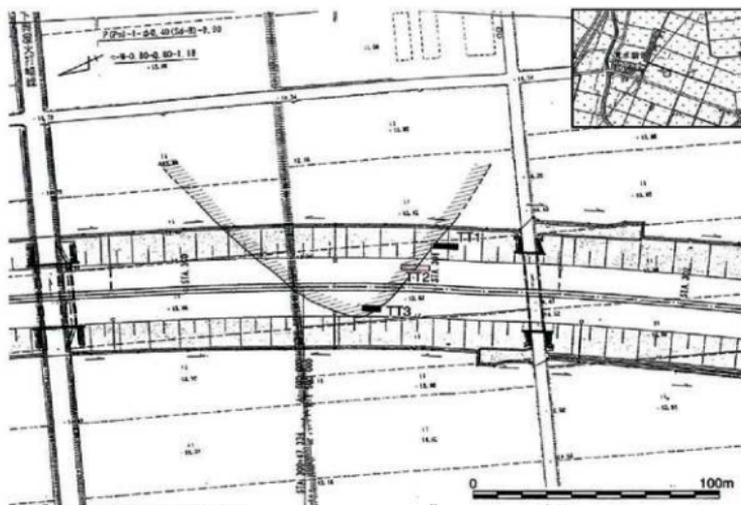
試掘方法 重機により表土除去及び掘削深度まで掘り進めながら部分的に手掘りしてトレンチ壁面及び底面の精査を行い、遺構・遺物の確認を行った。

試掘面積 46㎡

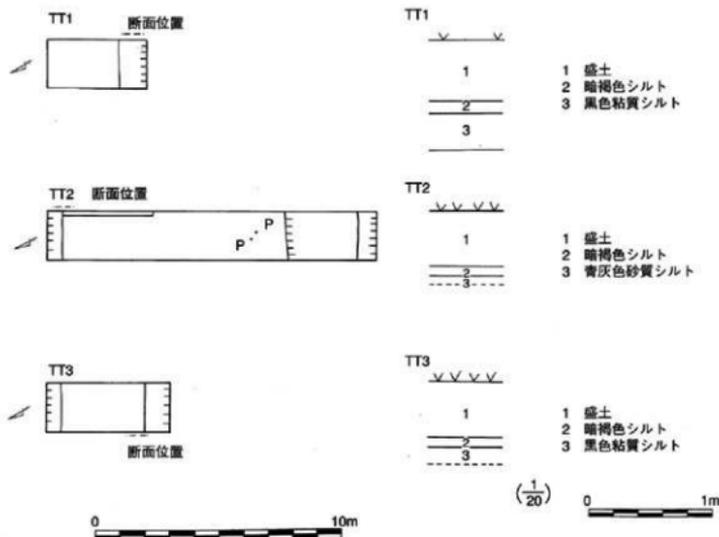
検出遺構 なし

出土遺物 古墳時代の土器 奈良・平安時代の土器

所見 TT1とTT3のトレンチで耕作土直下から暗褐色粘質土が確認された。TT2では安定したシルト層が見られ、シルト層から土器が2点出土した。TT2を中心にやや北側に安定したシルト層が若干延びることから発掘調査区域を拡張する必要がある。平成18年、19年(財)山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第37図 南田遺跡調査概要図



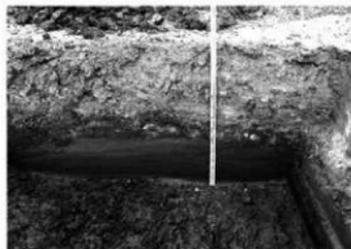
第38図 南田遺跡調査平面・断面略図



遺跡近風景



TT2トレンチ状況



TT3土層確認状況



TT2土層確認状況

図版30 南田遺跡

(2) 保呂羽堂遺跡 (J-247)

所在地 米沢市大字窪田

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 平成18年9月6日 試掘 11月20日立会調査

起因事業 窪田地区水防倉庫新築事業

遺跡環境 遺跡は最上川の自然堤防上に位置し、周辺と比較すると島状に高くなっている。標高228mを測る。地目は畑地となっている。

試掘区 計画区域内に2.4m×8mのトレンチを設定した。

試掘方法 重機により表土除去及び遺構検出面ないし遺物包含層まで掘り進めながら、部分的に手掘りでトレンチ壁面・底面の精査を行い遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 試掘調査 19.2㎡ 立会調査 38㎡ 計57.2㎡

検出遺構 ビット 柱穴

出土遺物 須恵器片 土師器片多数 鉄器片1点

所見 9月に遺跡範囲内にて試掘調査を実施した。柱穴や溝跡が確認されたため、11月に水防倉庫便層により破壊される全面を対象に立会調査を実施した。

試掘調査ではトレンチ内を精査したところ、ビット3基、柱穴1基、土壌2基を検出した。SK4は直径1m、深さ1mのやや規模の大きな柱穴で上部をSP3によって切られている。柱痕跡が明瞭に残り、柱は角材であることがわかる。埋土から土師器片・須恵器片・鉄器片が出土した。SK5・SK6はともに浅く、近代以降の攪乱を受けている。覆土から土師器片・須恵器片が出土した。

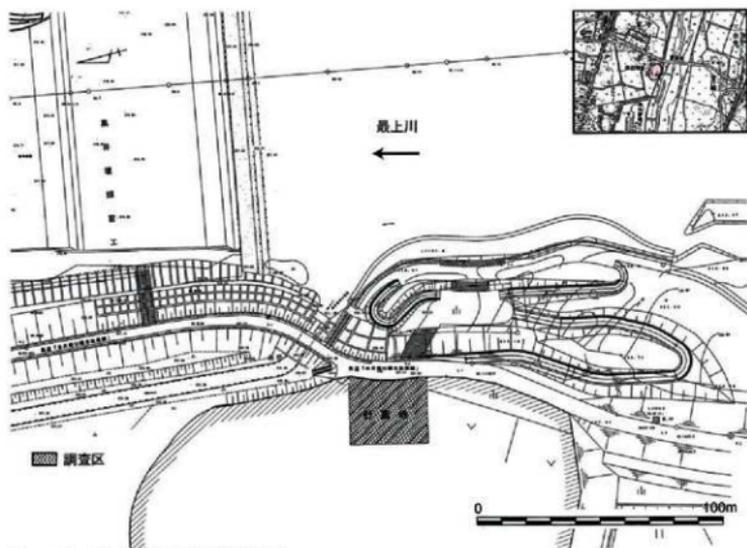
立会調査では幅1mの基礎部分の調査を行った。柱穴1基・ビット2基・竪穴住居跡1棟を検出した。竪穴住居は南東コーナー部分の検出で、遺構確認面から15cmの深さを測った。床面を精査したところ柱穴と壁際に周溝が認められた。床面は凹凸が見られたが貼り床などの状況は確認できなかった。出土した遺物は土師器・須恵器などであり、平安時代前半の時期と判断される。



遺跡近景 (南へ)



調査区近景 (東へ)



第39図 保呂羽堂遺跡調査概要図



調査区全景 (西→)



土坑検出状況 (東→)



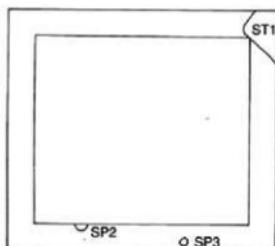
SK 4土坑断面 (南→)



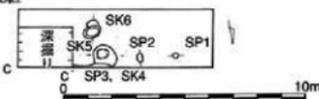
SK 4土坑完掘状況 (南→)

図版32 保呂羽堂遺跡(2)

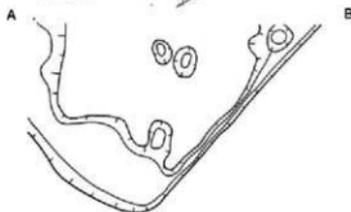
A区



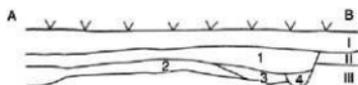
B区



ST1平面

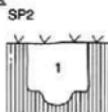


ST1断面



- | | |
|------------|---------------------------------|
| I 暗褐色シルト | 1 暗褐色シルト (土器片含む) |
| II 黒褐色シルト | 2 黒褐色シルト (*) |
| III 黄褐色シルト | 3 黒褐色シルトに黄褐色シルトと暗褐色シルトの小ブロックが入る |
| | 4 黒褐色シルト |

A区

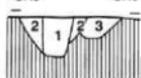


1 黒褐色シルト



1 黒褐色シルト

B区



- | |
|------------------------|
| 1 暗褐色シルト (柱痕) |
| 2 暗黄褐色シルト (黒褐色土を斑状に含む) |
| 3 暗褐色シルト |

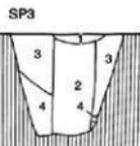
B区



1 暗灰褐色シルト

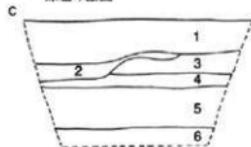


1 暗褐色シルト



- | |
|---------------------|
| 1 暗灰褐色シルト |
| 2 暗褐色シルト (柱痕) |
| 3 黒褐色シルトと暗褐色シルトの混合土 |
| 4 黒褐色シルト |

深掘り断面



- | |
|------------------|
| 1 耕作土 |
| 2 暗褐色シルト (細砂まじり) |
| 3 淡褐色シルト (溝横面) |
| 4 淡褐色シルト (地山) |
| 5 淡褐色粘質シルト |
| 6 褐色粘質土 |



第40図 保呂羽堂遺跡調査平面図, 断面図



竪穴住居跡 (ST1) 検出状況



竪穴住居跡 (ST1) 完掘状況

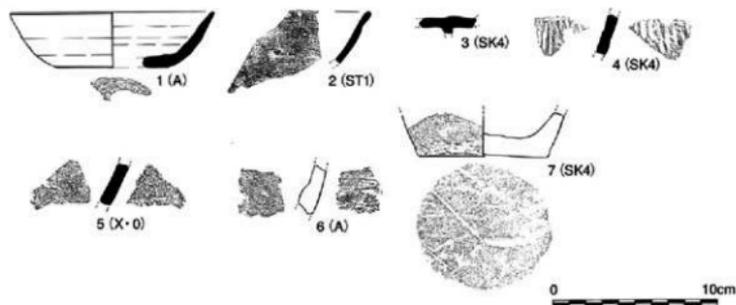


出土遺物 (土師器底部)



出土遺物 (須恵器)

図版 33 保呂羽堂遺跡 (3)



第 41 図 保呂羽堂遺跡出土遺物実測図

(22) 円能寺村東遺跡 (平成 18 年度登録)

所在地 酒田市大字円能寺字村東

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 表面調査 平成 18 年 10 月 11 日

試掘調査 平成 18 年 11 月 21 日 22 日

起因事業 最上川下流農業水利事業前川 2 幹線用水路

遺跡環境 酒田の市街地の東方約 5 km の平野部に位置し、周辺は水田が広がる。標高は 9 m を測る。

試掘区 用水路建設予定区域内に試掘トレンチ 10 本を設定した。

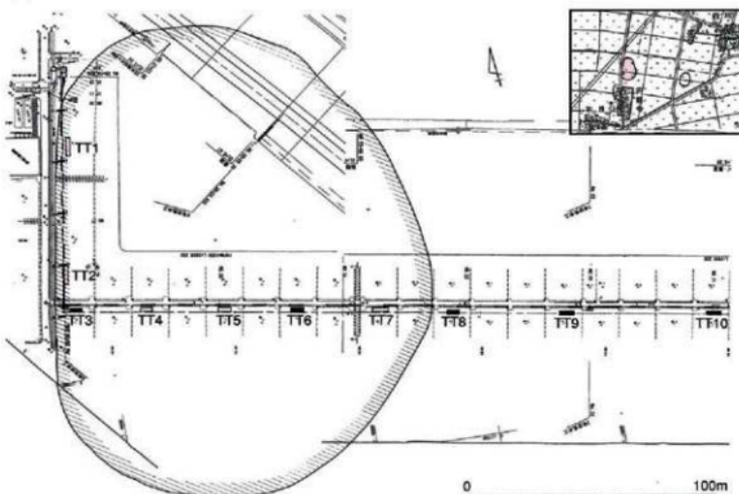
試掘方法 計画区域について重機により表土除去及び遺構検出遺物包含層まで掘り進めながら部分的に手掘りでトレンチ壁面及び底面の精査を行い、遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 135 m²

検出遺構 土色変化 (遺構?)

出土遺物 須恵器片 赤焼土器片

所見 設定したトレンチの内 4ヶ所から須恵器片・赤焼土器片が出土した。特に TT1・TT2 を中心とする範囲から多くの遺物が出土し、TT2 からは遺構の可能性のある土色変化が認められた。事業範囲内は過去の圃場整備等により一部削平されたと考えられるが遺構遺物が認められる TT1～TT5 の範囲については協議・手続きが必要である。



第 42 図 円能寺村東遺跡調査概要図



調査区近景（南東へ）



TT6 トレンチ全景（東へ）

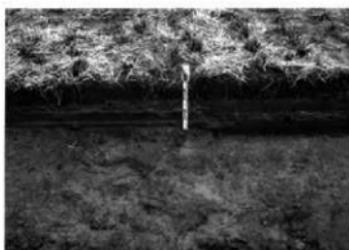
図版34 円応寺村東遺跡(1)



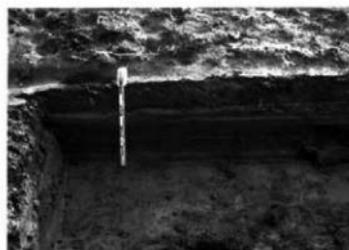
遺跡近景 (南東→)



TT 6 全景 (東→)

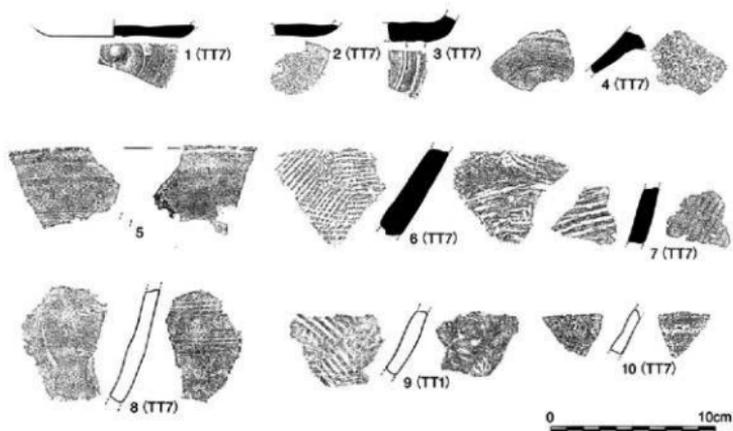


TT 5 土層断面 (北→)



TT 6 土層断面 (北→)

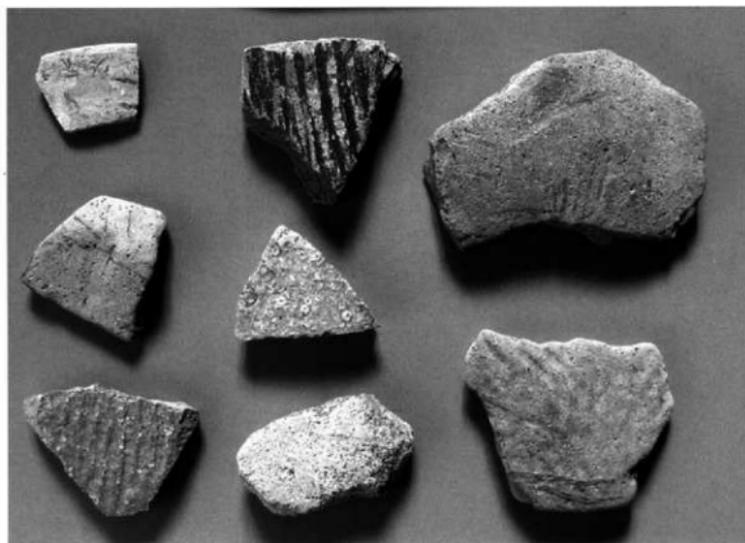
図版 35 円応寺村東遺跡 (2)



第 43 圖 円応寺村東遺跡出土土器拓影図



出土遺物（須恵器）



出土遺物（須恵器・赤埴土器）

(23)分遺跡 (平成18年度新規登録)

所在地 酒田市円能寺字分

調査員 高橋 敏 丸吉繁一

調査期日 表面調査 平成18年10月11日

試掘調査 平成18年11月21日 22日

起因事業 最上川下流農業水利事業前川2幹線用水路

遺跡環境 酒田の市街地の東方約5kmの平野部に位置し、周辺は水田が広がる。標高は9mを測る。

試掘区 用水路建設予定区域内に試掘トレンチ6本を設定した。

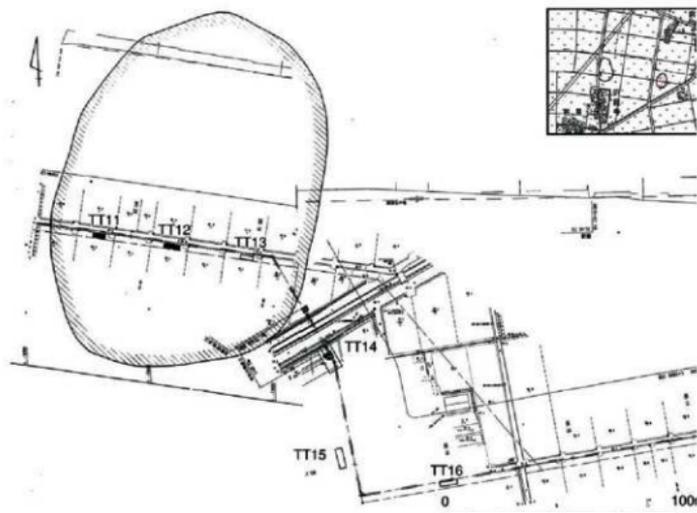
試掘方法 計画区域について重機により表土除去及び遺構検出遺物包含層まで掘り進めながら部分的に手掘りでトレンチ壁面及び底面の精査を行い、遺構遺物の確認を行った。

試掘面積 90㎡

検出遺構 なし

出土遺物 須恵器片 赤焼土器片

所見 周知の遺跡である境興野遺跡に隣接する。設定したトレンチのうちTT13から須恵器片・赤焼土器片が出土した。またTT12周辺の畑から多くの遺物散布を確認した。過去の圃場整備により大規模に改変され、影響を受けたと判断された。



第44図 分遺跡調査概要図



遺跡近景 (東へ)



TT11 トレンチ土層状況



TT12 トレンチ (東へ)



TT13 トレンチ (東へ)



出土遺物 (須恵器・赤俵土器)

Ⅲ. 記録保存調査・立会い調査の概要

1 八幡西遺跡 (平成9年度登録)

所在地 西川町大字西大塚字八幡西

調査員 阿部明彦 高橋 敏

調査期日 平成18年10月3日 4日

起因事業 一般国道287号長井南バイパス道路改良事業

遺跡環境 公立置賜病院の南約500m、最上川左岸の河岸段丘に立地する。標高は211mを測る。地目は宅地及び畑地である。

試掘区 昨年度の分布調査により遺構遺物が認められたTT2トレンチ周辺を拡張した。

試掘方法 重機と人力により発掘調査を実施

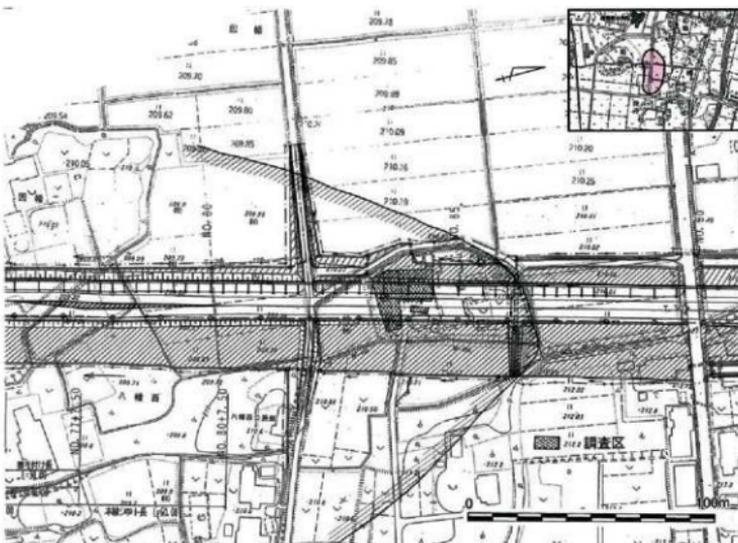
試掘面積 320㎡

検出遺構 調査区北西より、建物跡を構成する柱穴及び溝跡を検出。

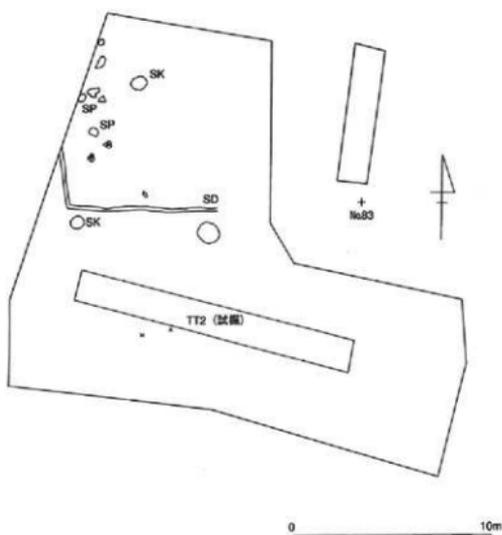
出土遺物 縄文時代早期の土器片1点 削器1点 陶器片

時代 縄文時代早期

所見 試掘調査時のトレンチ周辺より縄文時代早期の土器片と削器が出土したが、関連する遺構は確認できなかった。調査区北西において、平安時代ないし中世の建物跡を構成すると思われる柱穴と溝跡を検出した。しかし遺構に関わる遺物の出土がないため、その帰属時期は不明である。



第45図 八幡西遺跡調査概要図



第46図 八幡西遺跡調査平面図



遺跡近景(北へ)

図版38 八幡西遺跡(1)



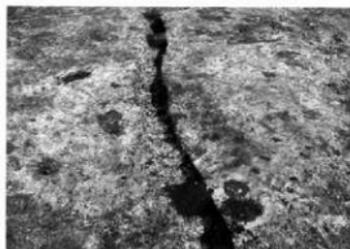
遺構検出状況 (東へ)



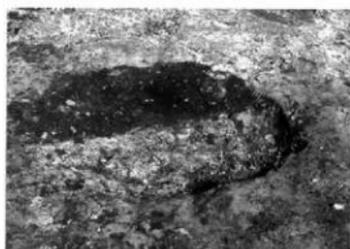
遺構精査状況 (南へ)



溝跡土層断面 (東へ)



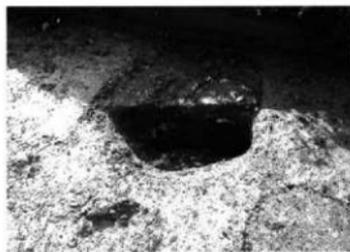
溝跡完掘状況 (東へ)



土坑断面 (南へ)



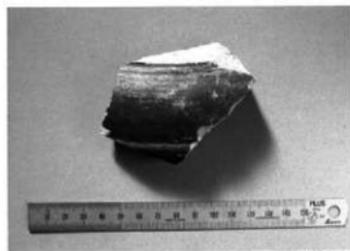
柱穴断面 (南→)



柱穴断面 (東→)



石器出土状況



出土石器



掻器

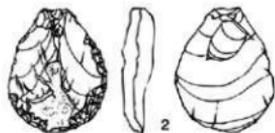


同左裏面

図版40 八幡西遺跡(3)



1



2

0 10cm

第47図 八幡西遺跡出土遺物実測図

2 空沢遺跡

(1)調査要項

所在地	山形県長井市寺泉字空沢西・入野川向
調査委託者	国土交通省
調査受託者	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
現地調査	平成18年11月15日～11月22日
調査面積	150㎡
調査担当者	技師 丸吉繁一
調査協力	国土交通省長井ダム調査事務所 長井市教育委員会 財団法人山形県埋蔵文化財センター

(2)調査に至る経緯

空沢遺跡の発掘調査は国土交通省長井ダム建設事業に伴って行なったものである。空沢遺跡は昭和61年度に山形県教育委員会が実施した埋蔵文化財包蔵地基礎調査によって確認され、「高蔵遺跡」として登録された遺跡である(平成16年度に「空沢遺跡」と訂正された)。平成15年度には山形県企業局による新野川第一発電所建設工事業業にともなって財団法人山形県埋蔵文化財センターによる記録保存のための発掘調査が行なわれ、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、陥穴列など縄文時代早期から晩期までの遺構と遺物が出土している。

事業箇所は前述の埋蔵文化財センター調査区に北接しており、地下には遺構の残存が予想された。このため国土交通省長井ダム工事事務所と協議を行ない、工事によって破壊される150㎡を対象として記録保存のための緊急発掘調査を実施することで合意を得た。調査は事業主体である長井ダム工事事務所の協力の下、県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室が実施した。

(3)遺跡の立地と環境

空沢遺跡は山形県長井市寺泉字空沢西・入野川向に位置する。遺跡は野川左岸で、川が大きく屈曲する場所に張り出した南向きの河岸段丘上にある。周辺は山間地で、野川により形成された深い谷が走り、長井盆地の平野部からは1.5kmほど奥まった場所である。

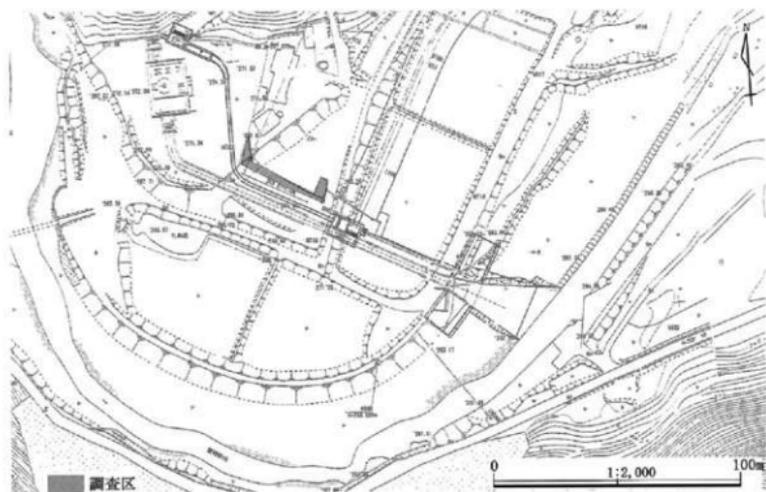
山間地ということもあり、空沢遺跡周辺には遺跡はほとんど確認されていない。野川流域では、さらに6kmほど上った場所に縄文時代とされる柱谷遺跡があるが、詳細は不明である。下流側も平野部に入るまでは縄文時代の遺跡は確認されていない。一方、朝日山地と平野部の境界付近には長者屋敷遺跡など縄文時代の遺跡が密集する草岡・勸進台地区を中心に、南北に遺跡が点在している。



1. 空沢遺跡 2. 南鴨石館跡 3. 小豆澤館跡 4. 小坂館跡 5. 寺泉古館跡 6. 片倉館跡
 7. 畑ノ上遺跡 8. 堀端遺跡 9. 浦原館跡 10. 金城館跡 11. 正福寺館跡 12. 新町遺跡
 13. 登之越遺跡 14. 谷地寺遺跡 15. 谷地中遺跡 16. 上福田遺跡

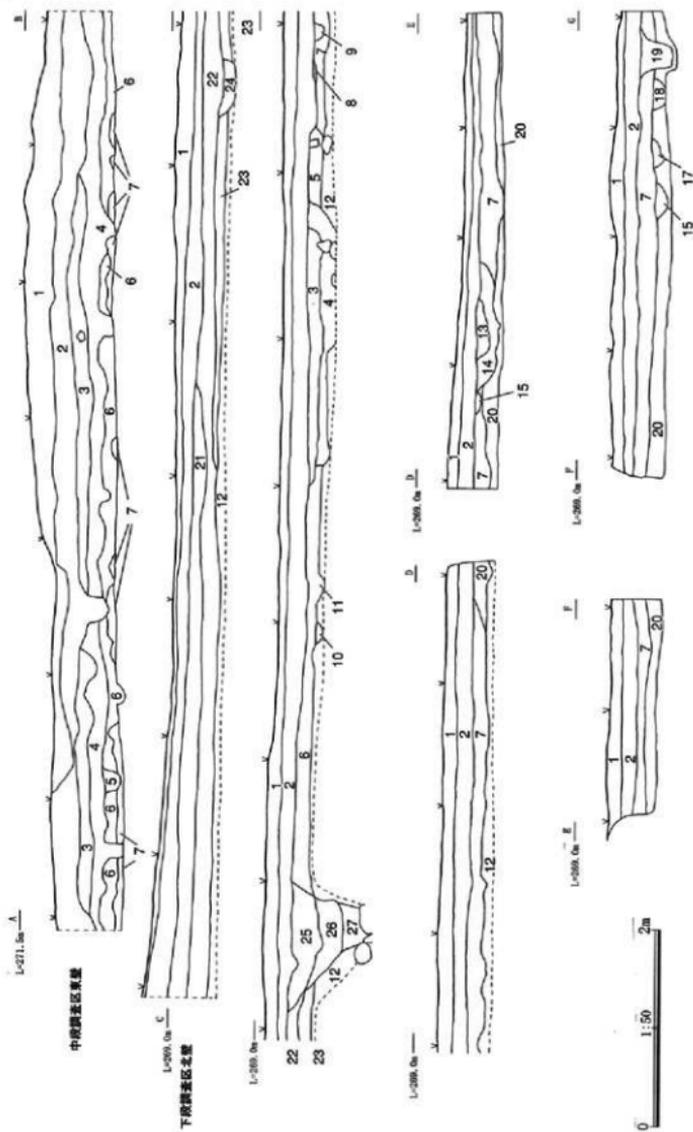
第48図 空沢遺跡周辺遺跡地図

(国土院発行2万5000分の1地形図『長井』『羽前上郷』より作成)

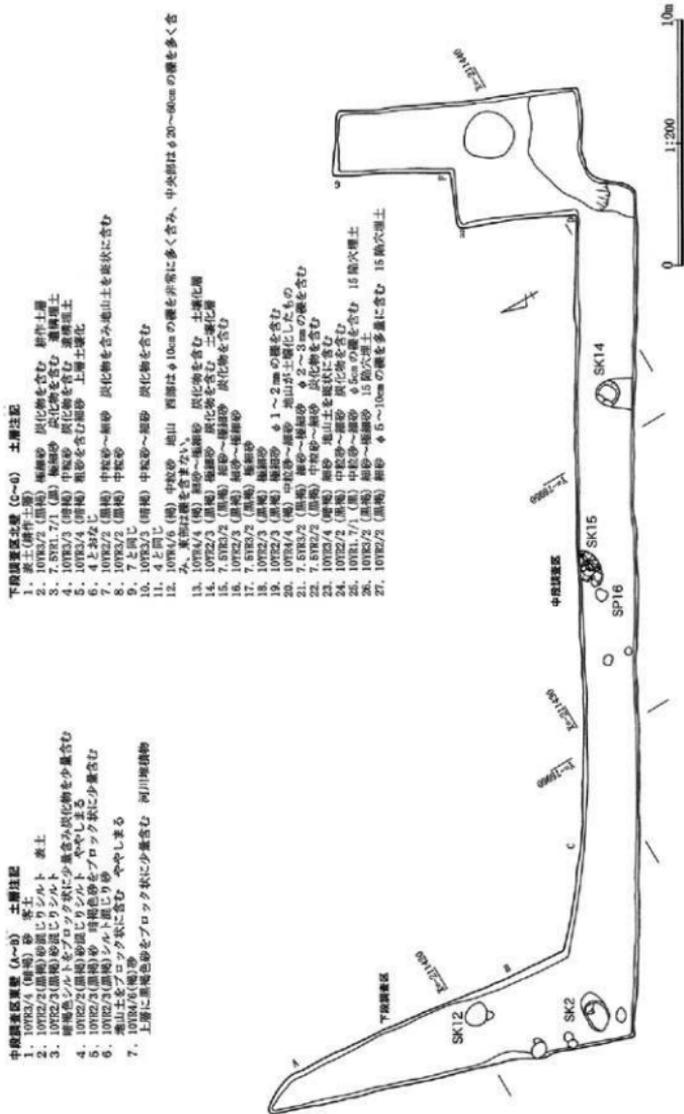


第49図 空沢遺跡調査区位置図

第50図 空況遺跡調査 断面図



第51図 控 況 遺 跡 調 査 平 面 図 断 面 (1)



- 中段調査区 (4~6) 土層注記
1. 10183/1 (黒) 赤土
 2. 10182/2 (黒) 赤土
 3. 10182/2 (黒) 赤土
 4. 10182/2 (黒) 赤土
 5. 10182/2 (黒) 赤土
 6. 10182/2 (黒) 赤土
 7. 10183/6 (黒) 赤土
 8. 10183/6 (黒) 赤土
 9. 10183/6 (黒) 赤土
 10. 10183/6 (黒) 赤土
 11. 10183/6 (黒) 赤土
 12. 10183/6 (黒) 赤土
 13. 10183/6 (黒) 赤土
 14. 10183/6 (黒) 赤土
 15. 10183/6 (黒) 赤土
 16. 10183/6 (黒) 赤土
 17. 10183/6 (黒) 赤土
 18. 10183/6 (黒) 赤土
 19. 10183/6 (黒) 赤土
 20. 10183/6 (黒) 赤土
 21. 10183/6 (黒) 赤土
 22. 10183/6 (黒) 赤土
 23. 10183/6 (黒) 赤土
 24. 10183/6 (黒) 赤土
 25. 10183/6 (黒) 赤土
 26. 10183/6 (黒) 赤土
 27. 10183/6 (黒) 赤土

- 下段調査区 (0~3) 土層注記
1. 10183/2 (黒) 赤土
 2. 10183/2 (黒) 赤土
 3. 10183/2 (黒) 赤土
 4. 10183/2 (黒) 赤土
 5. 10183/2 (黒) 赤土
 6. 10183/2 (黒) 赤土
 7. 10183/2 (黒) 赤土
 8. 10183/2 (黒) 赤土
 9. 10183/2 (黒) 赤土
 10. 10183/2 (黒) 赤土
 11. 10183/2 (黒) 赤土
 12. 10183/2 (黒) 赤土
 13. 10183/2 (黒) 赤土
 14. 10183/2 (黒) 赤土
 15. 10183/2 (黒) 赤土
 16. 10183/2 (黒) 赤土
 17. 10183/2 (黒) 赤土
 18. 10183/2 (黒) 赤土
 19. 10183/2 (黒) 赤土
 20. 10183/2 (黒) 赤土
 21. 10183/2 (黒) 赤土
 22. 10183/2 (黒) 赤土
 23. 10183/2 (黒) 赤土
 24. 10183/2 (黒) 赤土
 25. 10183/2 (黒) 赤土
 26. 10183/2 (黒) 赤土
 27. 10183/2 (黒) 赤土

- 上段調査区 (7~9) 土層注記
1. 10183/4 (黒) 赤土
 2. 10183/4 (黒) 赤土
 3. 10183/4 (黒) 赤土
 4. 10183/4 (黒) 赤土
 5. 10183/4 (黒) 赤土
 6. 10183/4 (黒) 赤土
 7. 10183/4 (黒) 赤土
 8. 10183/4 (黒) 赤土
 9. 10183/4 (黒) 赤土
 10. 10183/4 (黒) 赤土
 11. 10183/4 (黒) 赤土
 12. 10183/4 (黒) 赤土
 13. 10183/4 (黒) 赤土
 14. 10183/4 (黒) 赤土
 15. 10183/4 (黒) 赤土
 16. 10183/4 (黒) 赤土
 17. 10183/4 (黒) 赤土
 18. 10183/4 (黒) 赤土
 19. 10183/4 (黒) 赤土
 20. 10183/4 (黒) 赤土
 21. 10183/4 (黒) 赤土
 22. 10183/4 (黒) 赤土
 23. 10183/4 (黒) 赤土
 24. 10183/4 (黒) 赤土
 25. 10183/4 (黒) 赤土
 26. 10183/4 (黒) 赤土
 27. 10183/4 (黒) 赤土

- 土層注記
1. 10183/4 (黒) 赤土
 2. 10183/4 (黒) 赤土
 3. 10183/4 (黒) 赤土
 4. 10183/4 (黒) 赤土
 5. 10183/4 (黒) 赤土
 6. 10183/4 (黒) 赤土
 7. 10183/4 (黒) 赤土
 8. 10183/4 (黒) 赤土
 9. 10183/4 (黒) 赤土
 10. 10183/4 (黒) 赤土
 11. 10183/4 (黒) 赤土
 12. 10183/4 (黒) 赤土
 13. 10183/4 (黒) 赤土
 14. 10183/4 (黒) 赤土
 15. 10183/4 (黒) 赤土
 16. 10183/4 (黒) 赤土
 17. 10183/4 (黒) 赤土
 18. 10183/4 (黒) 赤土
 19. 10183/4 (黒) 赤土
 20. 10183/4 (黒) 赤土
 21. 10183/4 (黒) 赤土
 22. 10183/4 (黒) 赤土
 23. 10183/4 (黒) 赤土
 24. 10183/4 (黒) 赤土
 25. 10183/4 (黒) 赤土
 26. 10183/4 (黒) 赤土
 27. 10183/4 (黒) 赤土

(4)調査の経過

発掘調査は平成18年11月15日から11月22日までの延べ6日間実施した。調査地は野川の中位段丘面(以下「中段」という)と下位段丘面(以下「下段」という)にまたがっており、排土置場の都合から、まず中段の南半を調査し、記録をとって埋め戻した後に北半および下段を調査することとした。経過は以下のとおりである。

11月15～16日 中段南端を重機で掘削し、精査・記録後に埋め戻した。その後中段北半・下段の重機掘削を行なった。

11月17～21日 遺構検出・精査・記録作成を行なった。

11月22日 調査区を埋め戻し、調査を終了した。

(5)調査の成果

基本層序

調査対象地は畑地として利用されており、最上層は耕作土である。中段と下段でやや堆積状況が異なっており、中段では耕作土の下に黒褐色の砂混じりシルト層がみられ、その下層で地山である褐色砂を検出した。包含層はみられなかった。下段は耕作土層の下に包含層となる土壌化した層がみられ、その下層で中段と同じ褐色砂の地山を検出した。下段の地山はところどころで ϕ 60cm程度の大きな石を多量に含んでいた。

遺構

中段では多数のピットと土坑を、下段では土坑、陥穴、風倒木痕などを検出した。

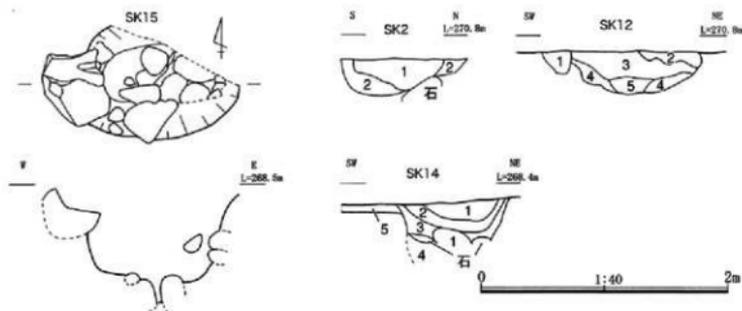
SK14

下段調査区で検出した。埋土に焼土を含み、底部には ϕ 50cm程度の大きな石が複数見られたが、これは地山に含まれるもので人為的に埋めたものではない。縄文時代中期(大木8a式)の深鉢が出土した。

SK15

下段調査区の中央付近で検出した。東半部は調査区外に延びているため検出できなかったが、平面形、底部の構造などからみて、埋蔵文化財センターによる調査で報告されている「陥穴A群」の続きである。上端の平面形は楕円形で、検出面から底面までの深さは約70cmあり、穴底には直径10cm程度の杭を立てた穴がみられる。杭穴の周囲には径20cm程度の礫がみられ、杭を支えるような構造となっているが、据えつけたような痕跡は確認できなかった。石は土中に埋まりこんでおり、置いたものではなく土中の石をそのまま残して利用したものと推測される。

遺物は出土していないが、埋蔵文化財センターの調査報告書では陥穴を縄文時代早期から前期のものと推測している。



SK2土層注記

1. 黒褐色 中粒砂
2. 暗褐色 中粒砂 淡黄褐色砂を多く含む

SK12土層注記

1. 10YR3/3(暗褐)砂 暗褐色砂をブロック状に少量含む 横乱か
2. 10YR4/4(褐)砂 黒褐色シルト・砂をブロック状に含む
3. 10YR2/2(黒褐)シルト混じり砂 褐色砂をブロック状に微量含む しまる
4. 10YR5/6(黄褐)細砂 黒色シルト混じり砂をブロック状に含む しまる
5. 10YR3/2(黒褐)砂混じりシルト 褐色砂をブロック状に少量含む しまる

SK14土層注記

1. 10YR2/2(黒褐) 細砂 炭化物を含む土層化層
2. 10YR3/3(暗褐) 細砂 炭化物を含む ややしまる
3. 10YR2/3(黒褐) 細砂～極細砂 堆山土を層状に含む
4. 10YR4/4(褐) 中粒砂～細砂 地山
5. 10YR3/4(暗褐) 中粒砂～細砂

第52図 空沢遺跡調査 平面図断面(2)

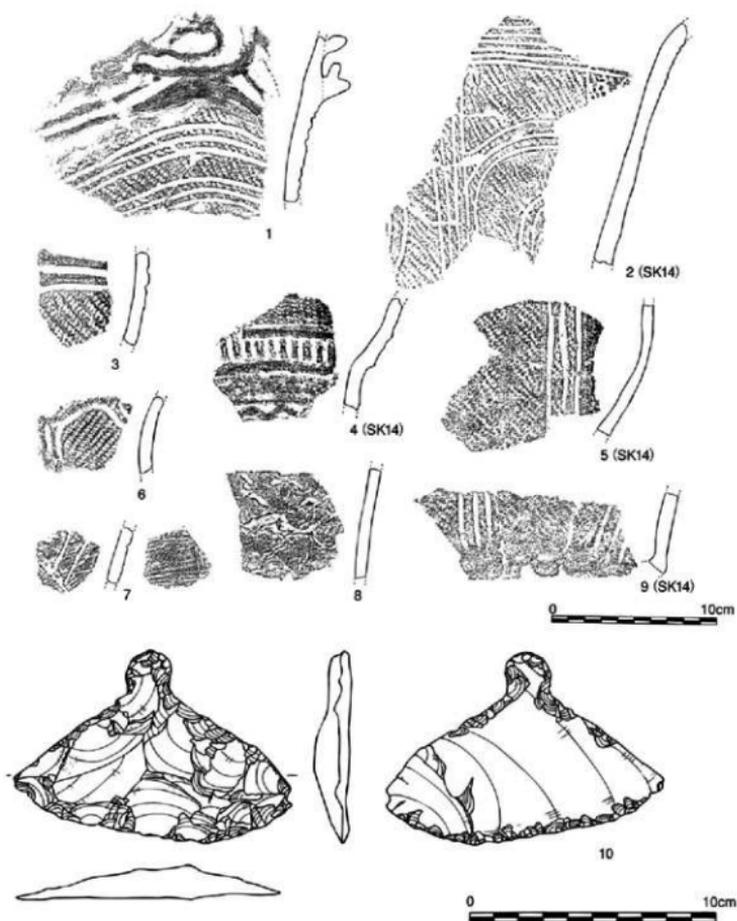
遺物

出土した遺物には縄文土器と石器がある。1・6・7は下段包含層から出土した。1は大木8a式、6は8b式の深鉢である。7は縄文時代早期田戸上層式の深鉢である。貝殻腹縁による条痕に沈線を施している。2・4・5・9はSK14から出土した。大木8a式の深鉢で、これらは同一個体である。3はSP16から出土した大木8b式の深鉢である。8は下段東端の風倒木痕から出土した大木2b式の深鉢である。S字連続捺文がみられる。10は下段包含層から出土した頁岩製の石匙である。幅約11.5cmと比較的大型で、横長の身部につまみがつく。つまみ部・刃部は両面加工、身部は裏面に大きく主要剝離面を残す。

(6)調査のまとめ

このたびの調査では調査区全体にわたって縄文時代の遺構を検出することができた。また、平成15年度調査で検出した陥穴列の続きを検出することができた。出土した遺物には縄文時代早期から中期までのものがあり、狭小な調査区ながら多様な時期のものがみられた。また、下段については、さらに北側へと遺跡が続いていることが明らかである。

空沢遺跡は狩猟場および食料採集・貯蔵等を行なった遺跡として位置づけられており、今回の調査でもその位置づけを追認する結果を得た。縄文時代における野川上流部の土地利用を考える上で重要な成果の一つとしてあげることができよう。



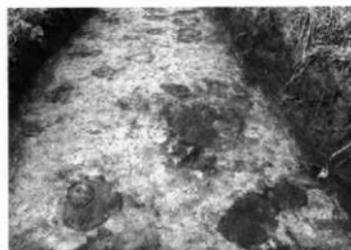
第53圖 空沢遺跡 出土遺物実測図



下位段丘面全景 (北西↖)



下位段丘面東部 (北東↗)



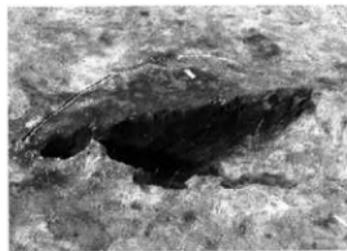
中位段丘面遺構検出状況 (南↘)



SK15 陥穴 (西↖) 15



SK2 土層断面 (東↗)



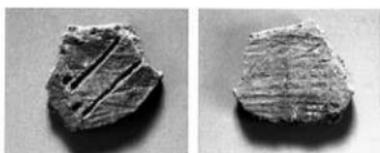
SK12 土層断面 (東↗)



SK14 土層断面 (南東↘)



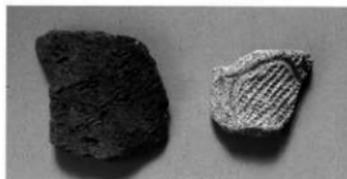
調査状況



第53圖-7



第53圖-4・5



第53圖-6・8



第53圖-3



第53圖-1・2・9



第53圖-10

3 石橋遺跡

(1) 調査要項

所在地	山形県天童市貫津字石橋
調査委託者	山形県住宅供給公社
調査受託者	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
現地調査	平成18年9月11日～9月25日
調査面積	415㎡
調査担当者	埋蔵文化財調査研究員 高橋 敏 技師 丸吉繁一
調査協力	山形県住宅供給公社 天童市教育委員会

(2) 調査に至る経緯

石橋遺跡は山形県住宅供給公社による公社タウン天童津山分譲住宅建設事業に先立ち、平成18年6月に山形県教育委員会で実施した試掘調査により新たに確認された遺跡である。試掘調査では事業予定地の西半ではほぼ場整備により既に遺構は削平されていたが、東半では溝・ピットを検出し、平安時代の須恵器・土師器が出土した。この結果を受けて事業主体の山形県住宅供給公社と協議を行ない、宅地内道路として造成される415㎡を対象として記録保存のための緊急発掘調査を実施することで合意を得た。調査面積が少ないこともあり、発掘調査は事業主体の協力の下、県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室で実施した。

なお、宅地として造成される部分については薄い盛土施行の上に整地を施す設計となっており、地下への影響が少ないと認められたため、調査の対象とはしていない。また、施工前に農道として利用されていた部分は施工時期の違いもあり、造成工事時に立ち会って記録保存の措置を執った。

(3) 遺跡の立地と環境

石橋遺跡は天童市の中心部から南東に1.5kmの倉津川左岸に位置する。倉津川は遺跡の東側を北流し、さらに東側には蔵王山系に連なる山々が迫っている。遺跡はこれらの山系に由来する扇状地上にあり、倉津川の形成した自然堤防上の安定した立地となっている。遺跡の標高は115m程度である。

遺跡は倉津川を挟んだ東側の山寺街道を臨む場所にある。倉津川左岸側においては、現在のところ石橋遺跡を除いて遺跡が確認されていない。唯一上流に越王山軍事洞窟群があるが、近代の遺跡である。西側の国道13号バイパス付近には平安時代とされる鉾ノ町条理遺跡があるが、内容は詳らかでない。一方、右岸側には石橋遺跡と同じく平安時代の遺物が確認されている湯尻遺跡、白山堂遺跡、長谷川遺跡などが存在する。さらに、白山堂A・B墳墓、石打場墳墓といった同時代の墳墓も確認されている。また、周辺には縄文時代の遺跡や中世城館跡も多い。ただし、石橋遺跡を除いては発掘調査を実施したものはなく、湯尻遺跡で遺跡詳細分布調査に伴う確認調査により堅穴住居跡などを検出したのみであり、周辺遺跡の詳細は不明である。



1. 石橋遺跡
2. 北目薬師寺神社一字一石塔
3. 天童古城(舞鶴山城)
4. 藤田遺跡
5. 塚田遺跡
6. 銀ノ町遺跡
7. 銀ノ町条里遺構
8. 湯尻遺跡
9. 右打場墳墓
10. 中島館跡
11. 山崎A遺跡
12. 山崎C遺跡
13. 山崎D遺跡
14. 山崎山館跡
15. 山崎B遺跡
16. 御阿弥陀堂跡
17. 阿弥陀堂跡
18. 古閑B遺跡
19. 古閑C遺跡
20. 古閑A遺跡
21. 善行寺跡
22. 八幡山墳墓群

第54図 石橋遺跡位置図
(国土地理院発行2万5000分の1地形図「天童」より作成)



第55図 石橋遺跡調査区位置図

(4) 調査の経過

発掘調査は平成 18 年 9 月 11 日から 9 月 25 日までの延べ 10 日間実施した。調査の経過は以下の通りである。

9 月 11・12 日 器材を搬入し、北西側から道路地形に沿って重機掘削を行なった。

9 月 13～15 日 検出と同時に平面図を作成した。15 日に検出作業を終え、写真撮影を行なった。

9 月 19～25 日 遺構精査及び記録の作成を行なった。25 日に山形県住宅供給公社、天童市都市計画課に調査結果と遺跡の範囲などについて現地で説明を行ない、器材等を撤収して調査を終了した。

また、農道部分の舗装道路化にともなう工事の立会は 11 月 9・10 日の 2 日間実施した。

(5) 調査の成果

基本層序

調査地は昭和期のほ場整備により大きく改変を受けていた。包含層は削平されており、遺構面は現在の水田に伴う耕作土（第 56 図土層図-1）とほ場整備時に盛られた整地層（土層図-3）の直下、地表下 10～25 cm で検出した。遺構面はφ10 cm 程度の礫を多量に含む明黄褐色の粘土であるが、遺構に混じってほ場整備時のものと思われる重機の痕跡が多くみられた。また、工事立会を行なった箇所については、北側はほ場整備に加えて暗渠や埋管により全面にわたって攪乱を受けていたものの、一部で遺構を確認することができた。南東半部はグライ化した粘土が厚く堆積しており、倉津川の旧流路が入り込んでいたものと考えられる。

遺構

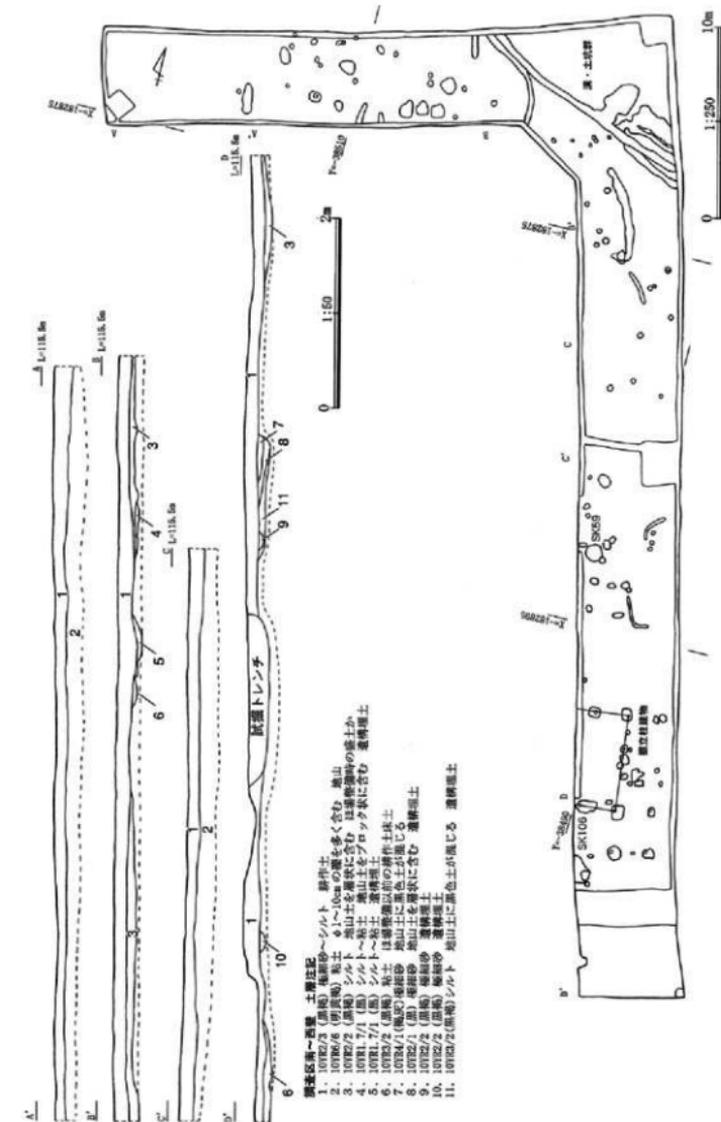
検出した遺構には溝、ピット、土坑がある。調査区南側で掘立柱建物跡を、北端で平行に走る複数の溝を検出した。また、そのほかに柱痕を確認できるピットをいくつか検出したが、調査区が狭長であったこともあり、建物として確認することはできなかった。

掘立柱建物跡(第 58 図)

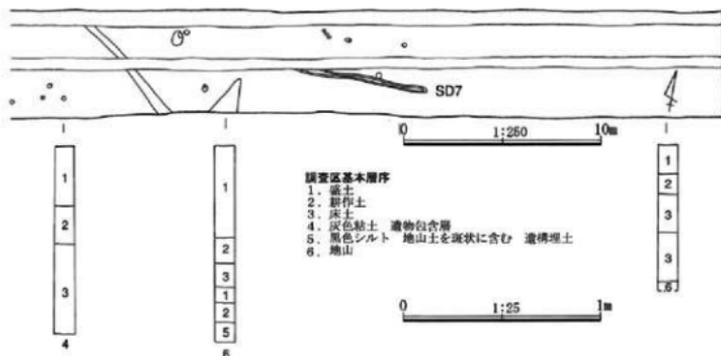
EB74・75・85・90・99・104 で構成され、調査区内では東半部分を検出するのみにとどまった。どの方向が桁行か判然としないが、東辺長は 5.2m であり、方位は N-7°-W である。遺物は EB74 から土師器の甕破片 1 点が出土したのみだが、このことから古代の掘立柱建物跡と考えられる。

溝・土坑群(第 57・59 図)

SD7 溝跡 工事立会で確認した。平安時代の遺物を包含する灰色の粘土の上面を切っており、他の遺構よりも新しいものかもしれないが、出土した遺物はすべて平安時代の須恵器、土師器である。浅く、調査区内で途切れていることから、上面は削平されたものであろう。



第56図 石橋遺跡調査平面・断面図(1)



第57図 石橋遺跡調査平面、断面図(2)

溝・土坑群 調査区の北端で検出した平行に走る溝とそれに関連するとみられる土坑である。SD30 溝跡のみ南へ屈曲している。SD30・31・40 溝跡には切り合いがあり、SD30・40 溝跡とも SD31 溝跡を切っている。SD31 溝跡は底面にラミナをもつ砂やシルト層が堆積しており、水が流れていたことがわかる。また、平面プランでは確認できなかったが、層位の検討から新旧 2 本の溝がきりあっていることが判明した。新しい溝は東側から SK44 土坑の西側まで延び、そこで途切れている。

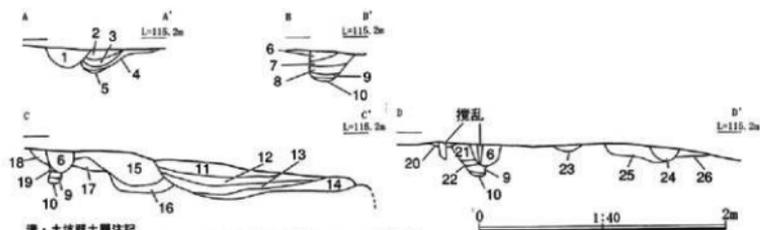
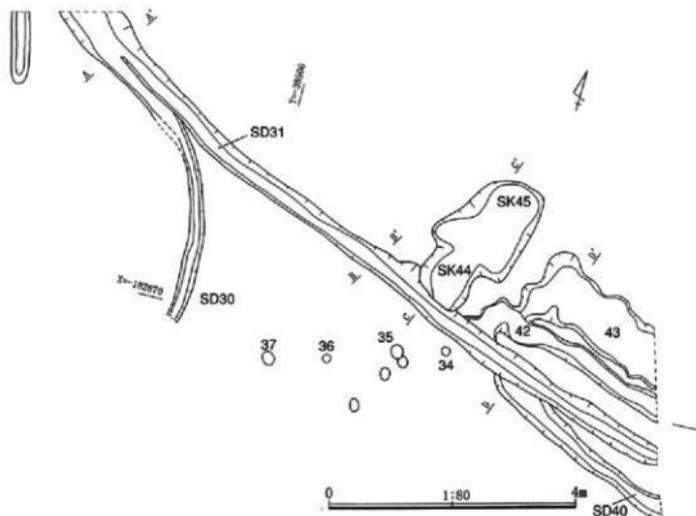
溝の北側には SK44・45 土坑があり、SD31 溝跡(新)と SK45 土坑とともに SK44 土坑を切っている。SK45 土坑の北側はグライ化した粘土が厚く堆積し、地山も急激に落ち込んでいくことから、倉津川の旧流路が入り込んでいるものとみられる。

溝と土坑の関係は不明であるが、土層の堆積状況からみて SD31 溝跡(旧)と SK44 土坑は繋がっていたようである。また、SD31 溝跡(新)・SK45 土坑はそれぞれ SD31 溝跡(旧)・SK44 土坑を掘り直したものとみられるが、SD31 溝跡(新)の出土遺物は SK45 土坑出土のものと同接するものがあることから考えて、これらも繋がっていたものと推測できる。SD31 溝跡は新旧とも、底面レベルが SK44 土坑と同接するあたりで最も低くなっており、水は SK44 土坑や SK45 土坑へと流れ込んでいたものかもしれない。

遺物は SD31 溝跡(新)・SK45 土坑から比較的多く出土している。時期にはやや幅があるが、須恵器の底部回転糸切の杯、甕、蓋などは 9 世紀のものである。SK45 土坑からは縄文中期とみられる深鉢底部も出土しており、付近に縄文時代の遺跡が存在することがうかがわれる。

柵状ピット列

SP34~37 は直線状に並ぶことから、柵状に杭が並んでいたものとみられる。しかし残存状態はきわめて悪く、10 cm 程度のごく浅い遺構しか確認できなかった。溝と方向を異にしているが、溝を切っているような状況は観察されなかったため、溝よりも古い時期のものと考えられる。遺物は出土していない。



溝・土坑群土層注記

1. 10YR1.7/1 (黒) シルト 地山土を斑状に微量含みφ3cmの礫を含む
2. 10YR2/1 (黒) シルト 地山土を微量含みφ5cmの礫を含む
3. 7.5YR1.7/1 (黒) シルト 地山土をブロック状に含む
4. 10YR2/1 (黒) シルト 地山土をブロック状に含む
5. 10YR5/3 (にぶい黄褐色) 細砂～粘土 下層から上層に向かって粒度が細くなる
6. 10YR1.7/1 (黒) シルト φ1～3mmの白色礫を少量含む
7. 10YR6/6 (明黄褐色) 粘土 黒色土を斑状に含む
8. 10YR1.7/1 (黒) 極細砂～シルト 地山土を少量斑状に含む
9. 10YR2/1 (黒) シルト～粘土 地山土を微量含む
10. 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 極細砂
11. 10YR2/1 (黒) シルト 地山土をブロック状に少量含む
12. 10YR2/1 (黒) 極細砂～シルト
13. 10YR6/6 (明黄褐色) 極細砂～シルト 地山土と黒色土が斑状に混在する
14. 10YR7/3 (にぶい黄褐色) 極細砂 地山土と黒色土が斑状に混在する
15. 10YR1.7/1 (黒) シルト 炭化物・地山土をわずかに含む
16. 10YR2/1 (黒) 粘土 地山土をわずかに含む
17. 10YR2/2 (黒褐色) 極細砂
18. 7.5YR1.7/1 (黒) シルト φ5cmの礫を含む
19. 10YR5/3 (にぶい黄褐色) 粘土 地山土に黒色土が混じる
20. 10YR2/1 (黒) 極細砂～シルト 地山土を微量含む
21. 10YR3/3 (暗褐色) 極細砂～シルト φ3～5mmの礫を少量含む
22. 10YR5/6 (黄褐色) 粘土 地山土に混るがより粘性が高い
23. 10YR2/1 (黒) シルト 地山土をブロック状に含む
24. 10YR1.7/1 (黒) 極細砂～シルト φ5mmの礫を少量含む
25. 10YR1.7/1 (黒) シルト 地山土をブロック状に含む ラミナあり
26. 10YR2/1 (黒) 極細砂 φ1mmの礫を含む

第59図 石橋遺跡調査平面・断面図(4)



第60図 石橋遺跡調査平面・断面図(5)

遺物(第61図)

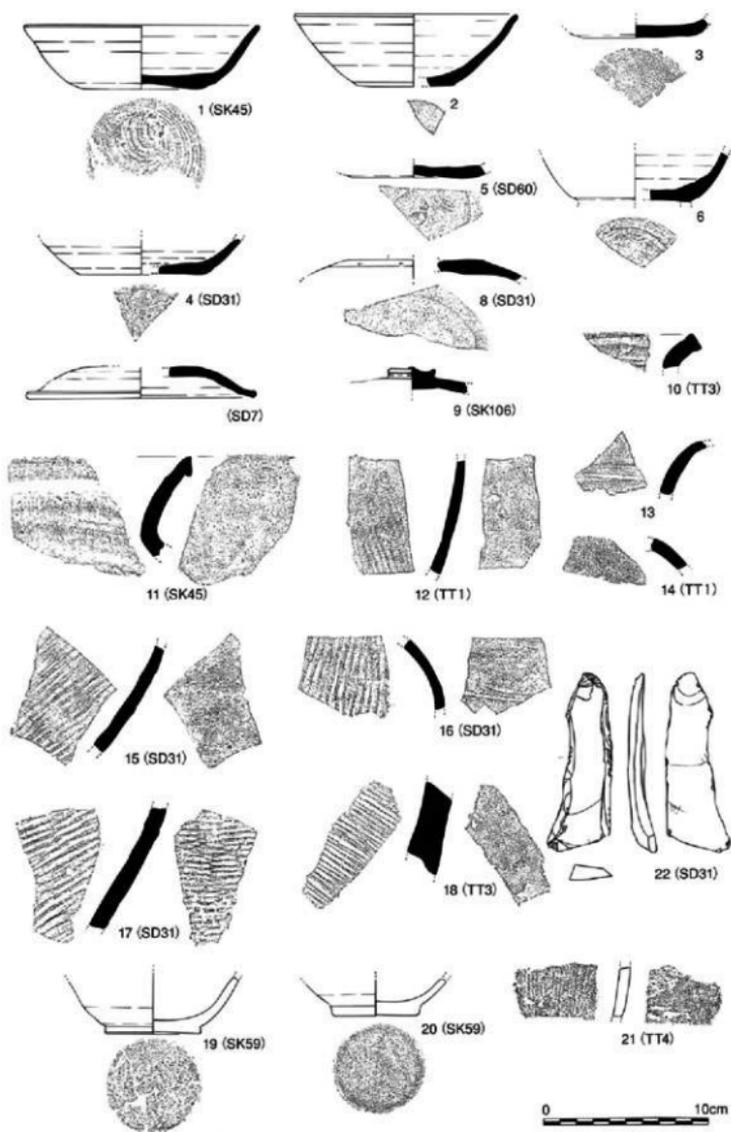
第61図1～3、11はSK45土坑出土の遺物である。坏の底部は回転糸切で、1は器形から9世紀前半のもの、2は9世紀後半のものである。11と同一個体がSD31溝跡からも出土している。4、6、8、15、22はSD31溝跡からの出土遺物である。22を除き、9世紀中頃のものである。5はSD64溝跡から出土したヘラ切りの須恵器坏底部である。ヘラ切りの須恵器は調査地の南側の水田でも表採しており、本遺跡が8世紀代から継続しているものであることを示唆する。19・20はSK59土坑から出土した赤焼土器の杯で、10世紀前半のものである。18は試掘調査で出土したもので、珠洲系の甕である。

(6)調査のまとめ

以上のように、石橋遺跡では掘立柱建物・溝群をもつ平安時代の集落跡を検出した。これまで倉津川左岸では遺跡が見つかっておらず、当地域の歴史を考える上で重要な成果を上げることができたと言える。

集落は9世紀を中心として、8世紀から10世紀にわたり存続したこと、また、周辺に縄文時代の遺跡が存在する可能性があることも判明した。遺跡はほ場整備の影響を受けており、残存状況は良好とは言えないが、遺構を確認することはできる。東側は倉津川が流れており、遺跡の中心部は今回の調査地の南および西側とみられる。

なお、調査地南側は今回の調査対象地よりも高い水田面となっており、工事立会でも遺構面の土層に厚く盛土がなされていることが確認できている。ほ場整備による削平の影響も少なかったとみられ、遺構が良好に残存しているものと予想される。



第61図 石橋遺跡 出土遺物実測図

表-3 石橋遺跡出土遺物觀察表

(単位 cm)

遺物番号	種別	器種	口径	底径	器高(残存長)	備考
61-1	須恵器	杯	14.3	7.2	3.2	
61-2	須恵器	杯	13.5	5.9	4.4	
61-3	須恵器	杯	—	6.5	(1.2)	
61-4	須恵器	杯	—	7.4	(2.3)	
61-5	須恵器	杯	—	7.8	(0.8)	
61-6	須恵器	杯	—	—	(3.0)	高台剥離
61-7	須恵器	蓋	13.8	—	(2.1)	
61-8	須恵器	蓋	—	—	(1.3)	
61-9	須恵器	蓋	—	—	(1.5)	
61-10	須恵器	甕	—	—	(2.2)	
61-11	須恵器	甕	—	—	(6.0)	
61-12	須恵器	甕	—	—	(6.9)	
61-13	須恵器	壺	—	—	(3.0)	
61-14	須恵器	壺	—	—	(2.0)	
61-15	須恵器	甕	—	—	(6.8)	
61-16	須恵器	甕	—	—	(4.2)	
61-17	須恵器	甕	—	—	(7.5)	
61-18	珠洲系陶器	甕	—	—	(5.7)	
61-19	赤焼土器	杯	—	5.7	(3.8)	
61-20	赤焼土器	杯	—	5.0	(2.3)	
61-21	土師器	甕	—	—	(3.0)	
61-22	石器	剥片	—	—	(10.8)	



調査区全景(南)



調査区北半全景(西)



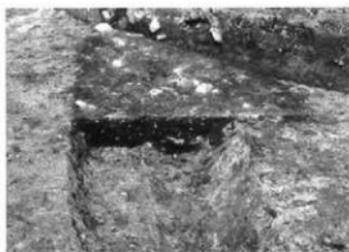
調査区南半全景(南)



溝・土坑群検出状況(東)



溝・土坑群精査状況(東へ)



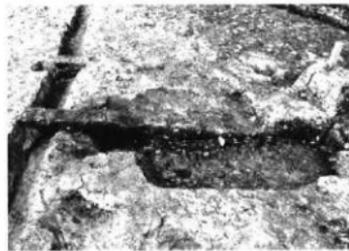
SD30・31 溝跡土層断面(東へ)



SD31 溝跡土層断面(東へ)



SD31・40 溝跡土層断面(東へ)



SD31 溝跡・SK44・45 土層断面(東へ)



獨立柱建物跡 (東↖)



EB74 土層断面 (北↖)



EB75 土層断面 (北↖)



EB99 土層断面 (南西↖)



EB104 土層断面 (南↖)



SK59 完掘状況 (北西へ)



SK106・107 土層断面 (北へ)



工事立会調査区全景 (東へ)



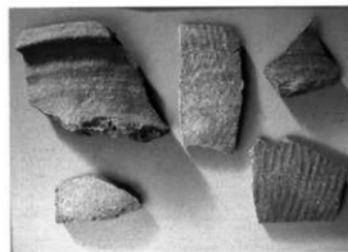
第 61 図-6~10



第 61 図-2~5



第 61 図-1



第 61 図-11~14・16



第 61 図-19・20

表-4 掲載遺跡位置図使用図幅一覧(2万5千分の1)

No.	遺 跡 名	図 幅 名	No.	遺 跡 名	図 幅 名
1	熊野堂前遺跡	寒河江	31	天神堂大坪遺跡	余目
2	松岡山遺跡	寒河江	32	野田巖手刀出土地 1	榑岡
3	石持原遺跡	寒河江	33	草伊賀B遺跡	榑岡
4	たらのき代D遺跡	大網	34	石橋遺跡	天童
5	菰田2遺跡	羽根沢温泉	35	天矢場遺跡	羽前中山
6	鶯畑古墳・西山墳墓	羽黒山	36	山形城三ノ丸	山形北部
7	九野本地区遺跡	長井・羽前小松	37	達磨寺遺跡	山形北部
8	海谷森遺跡	大網	38	檜原遺跡	羽前小松
9	山元遺跡	天童	39	上大作裏遺跡	羽前小松
10	小反遺跡	羽根沢温泉	40	堤屋敷遺跡	米沢東部
11	由良館	三瀬	41	川内袋遺跡	三瀬・温海
12	堅苔沢館	三瀬	42	南田遺跡	鶴岡
13	青沢館	升田	43	保呂羽堂遺跡	榑野目
14	山寺	山寺	44	円能寺村東遺跡	羽後観音寺
15	市布d遺跡	米沢	45	分遺跡	羽後観音寺
16	七郎ヶ沢遺跡	米沢東部	46	八幡西遺跡	羽前小松
17	亀ヶ崎城跡	酒田南部	47	石橋遺跡	天童
18	間沢館	海味	48	空沢遺跡	羽前上郷
19	海味橋	海味			
20	玉作3・出張坂城	鶴岡			
21	新庄古口道路関係遺跡1	古口			
22	新庄古口道路関係遺跡2	古口			
23	新庄古口道路関係遺跡3	古口			
24	西山遺跡	羽黒山			
25	植ノ山1	上山			
26	野村清水遺跡	羽黒山			
27	上の寺遺跡	寒河江			
28	上野遺跡	赤湯			
29	泉興野1遺跡	余目			
30	泉興野2遺跡	余目			

IV まとめ

平成 18 年度の遺跡詳細分布調査は、平成 19 年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発側との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会調査も行った。

1 調査遺跡数

調査遺跡数 67 遺跡（表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会調査・新規発見遺跡含む）、その他に調査遺跡数に含めないが、登録遺跡外で遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したもの（調査の結果、遺跡とまらないもの）や表面踏査により各種開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地（今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの）などについても調査を実施した。

2 新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数 18 遺跡

範囲の訂正、名称の変更等の措置が講じられた遺跡数 6 遺跡

以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

(1) 県教育委員会が発見し登録した遺跡

(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時期)
1 菰田 2 遺跡	鮭川村大字庭月字菰田	集落跡・城館跡	平安・中世
2 石橋遺跡	天童市大字貫津字石橋	集落跡	平安時代
3 タテ遺跡	戸沢村大字蔵岡	散布地	縄文・平安
4 皿嶋遺跡	戸沢村大字古口	散布地	奈良・平安
5 円能寺村東遺跡	酒田市大字境興野字 円能寺村東	集落跡	奈良・平安
6 分遺跡	酒田市大字鏡興野字分	集落跡	奈良・平安
7 新町遺跡	長井市大字九野本字新町	散布地	縄文時代
8 天神堂大坪遺跡	酒田市大字砂越字柏町	散布地	奈良・平安
9 泉興野 1 遺跡	酒田市大字飛鳥字矢舞台	散布地	奈良・平安
10 泉興野 2 遺跡	酒田市大字飛鳥字割前	散布地	奈良・平安
11 ホーヤ沢遺跡	舟形町大字福田字ホーヤ沢	散布地	縄文・奈良・平安
12 高田遺跡	新庄市大字福田字高田	散布地	縄文・奈良・平安
13 八幡原 1 遺跡	新庄市大字福田字八幡原	散布地	縄文・奈良・平安
14 八幡原 2 遺跡	新庄市大字福田字八幡原	散布地	縄文時代
15 福宮遺跡	新庄市大字本合海字福宮	散布地	縄文時代
16 天矢場遺跡	南陽市大字川樋字天矢場	集落跡	縄文・平安

(2) 国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出で登録した遺跡

- | | | | |
|--------------|-------------|-----|------|
| 1 安如寺遺跡 | 上市市大字仙石字安如寺 | 集落跡 | 平安時代 |
| 2 吉原こくぞうさま古墳 | 山形市大字吉原字吉原 | 古墳 | 古墳時代 |

(3) 範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡

(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
1 北道上A遺跡	範囲の修正	平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』
2 植ノ山1遺跡	範囲の修正	平成 17 年 3 月『分布調査報告書(31)』
3 山元遺跡	範囲の修正	平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』
4 草伊賀B遺跡	範囲の修正	平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図CDROM』
5 堤屋敷遺跡	範囲の修正	平成 18 年 3 月『分布調査報告書(32)』
6 南田遺跡	範囲の修正	平成 19 年 3 月『分布調査報告書(33)』



安如寺遺跡



吉原こくぞう様古墳

報告書抄録

ふりがな	ぶんぶちようさほうこくしょ							
書名	分布調査報告書(34)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第208集							
編著者名	阿部明彦 石井浩幸 丸吉繁一 高橋敏(平成18年度担当)							
編集機関	山形県教育委員会							
所在地	〒990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号 TEL 023-630-2880							
発行年月日	西暦 2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺物番号					
ほちまんにし 八幡西	やまがたけん 山形県 川西町 おほあざにしのおつか 大字西大塚 あざほちまんにし 字八幡西	382	平成9年 度登録	38度 02分 52秒	140度 04分 08秒	20061003 ～ 20061004	320	一般国道287号長井南バイパス道路改良工事
いし ばし 石 橋	やまがたけん 山形県 天童市 おほあざぬくつ 大字貫津 あざいし ばし 字石橋	210	平成18年 度登録	38度 21分 15秒	140度 24分 2秒	20060911 ～ 20060925	415	住宅団地造成事業
あから ざわ 空 沢	やまがたけん 山形県 長井市 おほあざていすずみ 大字寺泉 あざからざわ 字空沢	6201	昭和61年 度登録	38度 05分 40秒	139度 57分 48秒	20061115 ～ 20061122	170	長井ダム建設事業利水補償施設建設工事
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
八幡西	散布地	縄文時代	柱穴 8 溝跡 1 土壌 3		縄文土器(早期後半) 播器 剥片 陶器		縄文時代早期の土器と石器が出土した。中世と思われる建物跡を確認した。 (総出土箱数: 1 箱)	
石橋	集落跡	平安時代	建物跡 1 土壌 溝跡		須恵器 あかやき土器 珠洲系陶器		平安時代の掘立柱建物からなる集落の一部を検出した。水田面は過去の耕地整理で削平されているが遺構の遺存が確認された。 (総出土箱数: 2 箱)	
空沢	集落跡	縄文時代	土壌 5 ピット 8		縄文土器(早期～中期) 石匙		野川の左岸に立地する縄文時代のムラの跡である。おとし穴が見つかった。縄文時代早期から中期にかけての遺物が出土した。 (総出土箱数: 1 箱)	

山形県埋蔵文化財調査報告書第208集

分布調査報告書(34)

平成18年度以降農林土木事業他関係遺跡
国土交通省事業関係遺跡
農林水産省関係遺跡
東北中央自動車道関係遺跡
日本海沿岸東北自動車道関係遺跡

平成20年3月25日 印刷

平成20年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 株式会社ケムシー
